

# 令和5年度 神林地区 住民アンケート集計結果

実施時期 : 令和5 (2023) 年春  
実施方法 : 調査票の個別配布・個別回収  
配布数 : 6,396通  
有効回答数 : 5,813通  
有効回答率 : **90.9%**

かなり高い回答率！ (地域住民の意向がしっかりと反映されているデータ)

## 令和4年度 住民アンケート

- 本アンケートは、神林地区に暮らしている中学生以上の全住民を対象に実施するものです。一人ひとりからお考えを伺うことで、世代別・男女別の考え・ニーズを把握・整理し、これからの取り組みに反映していきます。
- 回答は無記名でお願いします。結果は、個人が特定されない形で集計・分析します。
- アンケート用紙は、お一人ずつ提出していただきますので、家族で意見が違って構いません。思っていることをそのまま回答してください。

問1 あなたの年齢と性別について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

(年齢) 1. 中学生～19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳  
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70～79歳 8. 80歳以上

(性別) 1. 男性 2. 女性

問2 家族構成について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 1人暮らし 2. 夫婦のみ 3. 二世帯同居 (親と子)  
4. 三世帯以上同居 (親と子と孫など) 5. その他

問3 あなたの仕事にあてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

1. 農業 2. 林業 3. 漁業 4. 自営業 5. 会社員 6. 公務員・団体職員  
7. パート・アルバイト 8. 専業主婦(夫) 9. 中学生 10. 高校生・高専生  
11. 大学生・短大生・専門学校生 12. その他( ) 13. 無職

※仕事されている方は、以下もお答えください。

問3-2 休日はいつですか。(祝日を除く)

1. 土曜(毎週)と日曜 2. 土曜(隔週)と日曜 3. 日曜のみ 4. 平日 5. 不定期 6. その他

問4 日常の**主な交通手段**は何ですか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 自動車(自分で運転) 2. 自動車(送迎してもらう) 3. バイク(原付を含む) 4. バス  
5. タクシー 6. のりあいタクシー 7. 自転車 8. 徒歩 9. その他( )

問5 あなたは**自動車運転免許**を持っていますか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

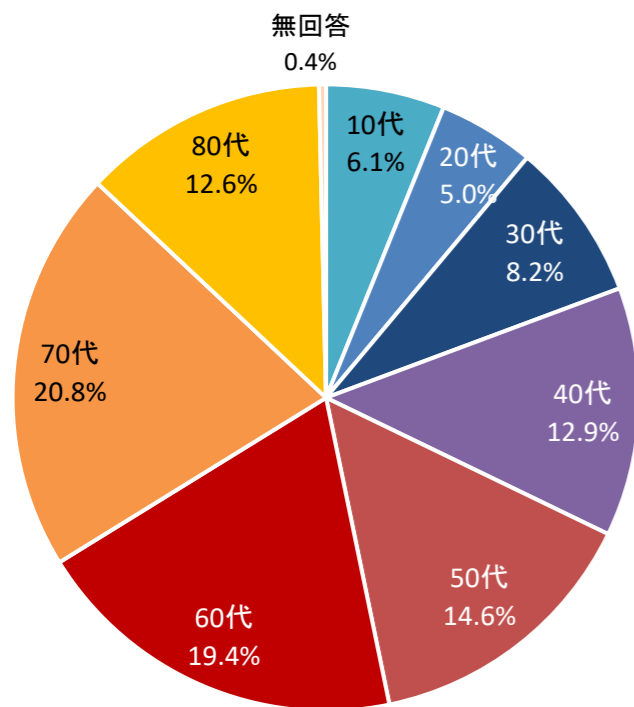
1. 持っている 2. 返納した 3. 持ったことはない 4. その他( )

※免許を持っている方にお聞きします

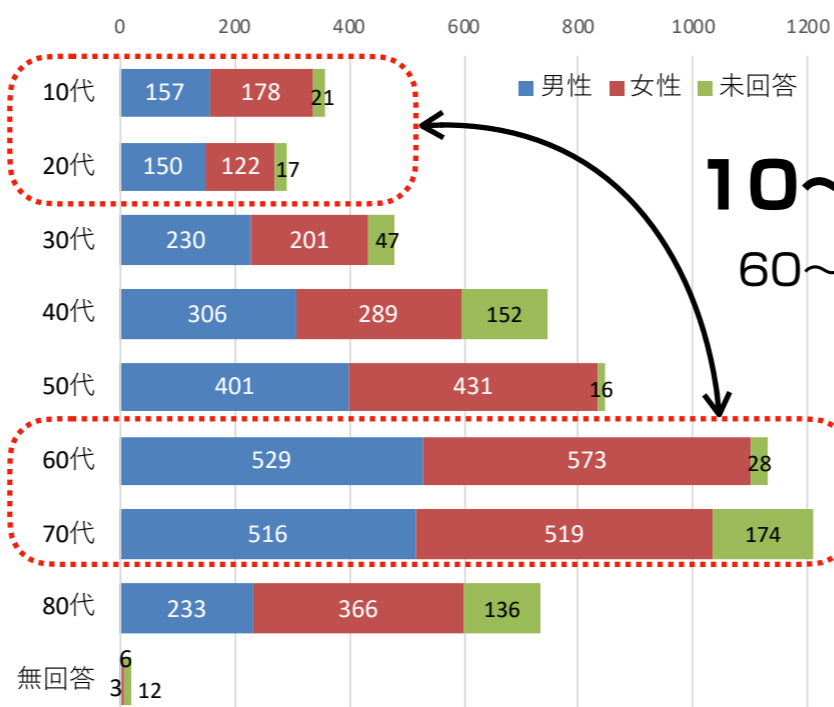
問5-2 自動車の**運転に不安**を感じることはありますか。あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

1. 不安は感じない 2. 夜間や冬期など不安を感じることはある  
3. 友人や知人など乗せることに不安を感じる 4. その他( )

### 回答者属性 (年代別)



### 回答者属性 (年代別×男女別)

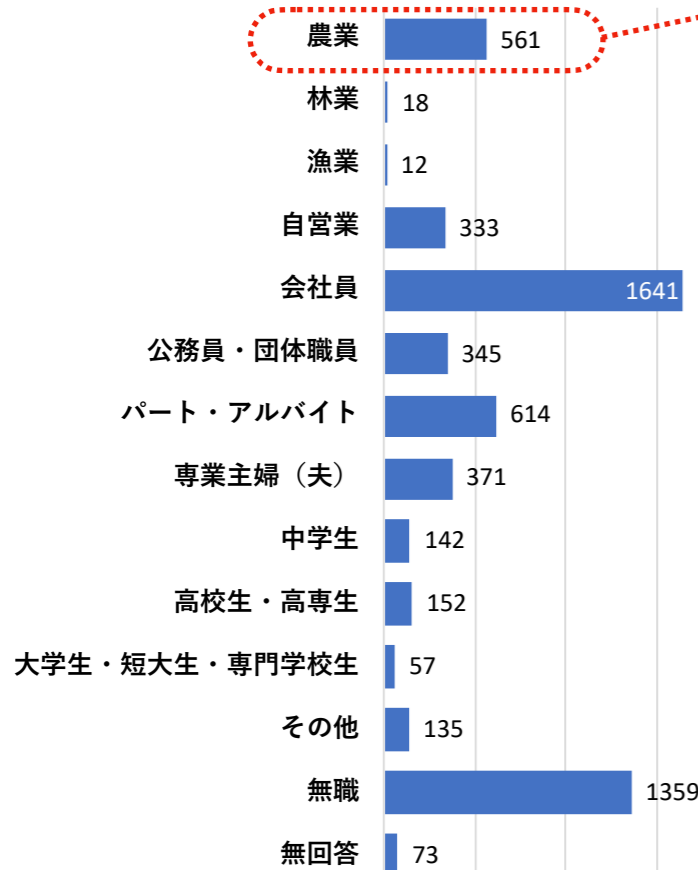


若者世代は少数派。  
人数では年配層が完全に多数派。

10~20代は  
60~70代の3割以下

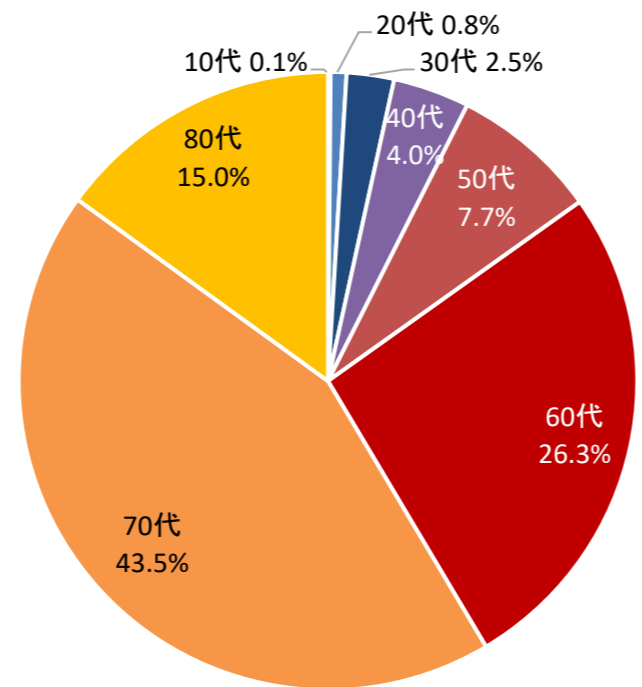
そのため、アンケート結果は、数を比較するのではなく、年代別の回答割合を比較し、世代間の意識の違いを浮かびあがらせています。

### 回答者属性 (職業)



### 農作業従事者の年代構成 (割合)

※専業561人+兼業165人=726人



### 農作業従事者の年代構成

年代	人数
10代	1
20代	6
30代	18
40代	29
50代	56
60代	191
70代	316
80代	109
計	726

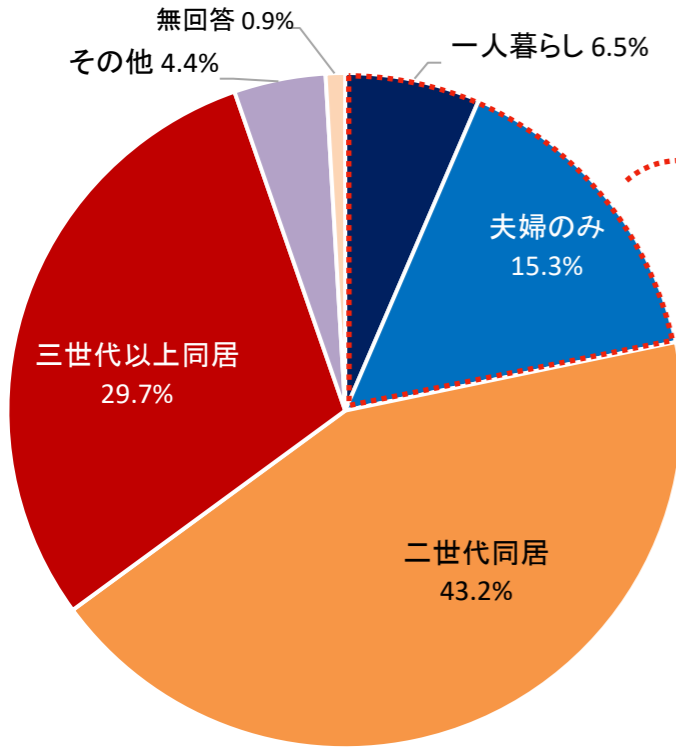
農地の維持管理は  
将来どうなる？

農作業従事者の84.8%が60代以上 20年後は230人程度!?

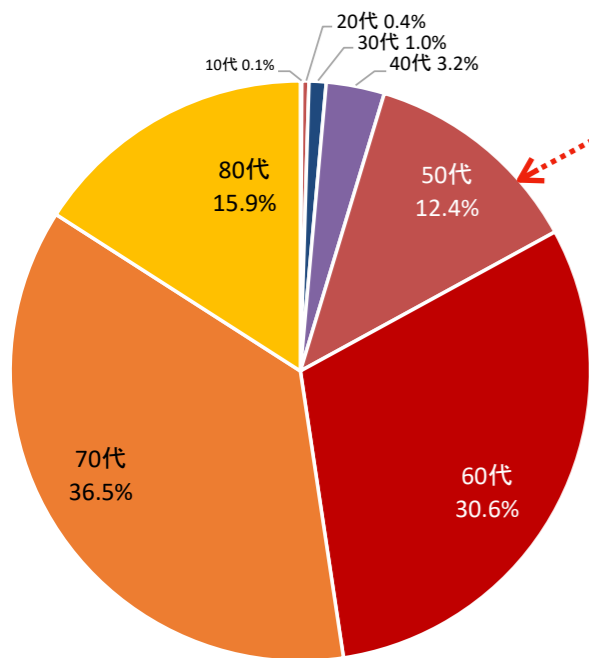
# 回答者属性 (家族構成)

村上市・神林地区 (2023)

## 回答者属性 (世帯構成)



72.9%が親子世帯



単身及び夫婦のみ世帯の  
83.0%が60代以上

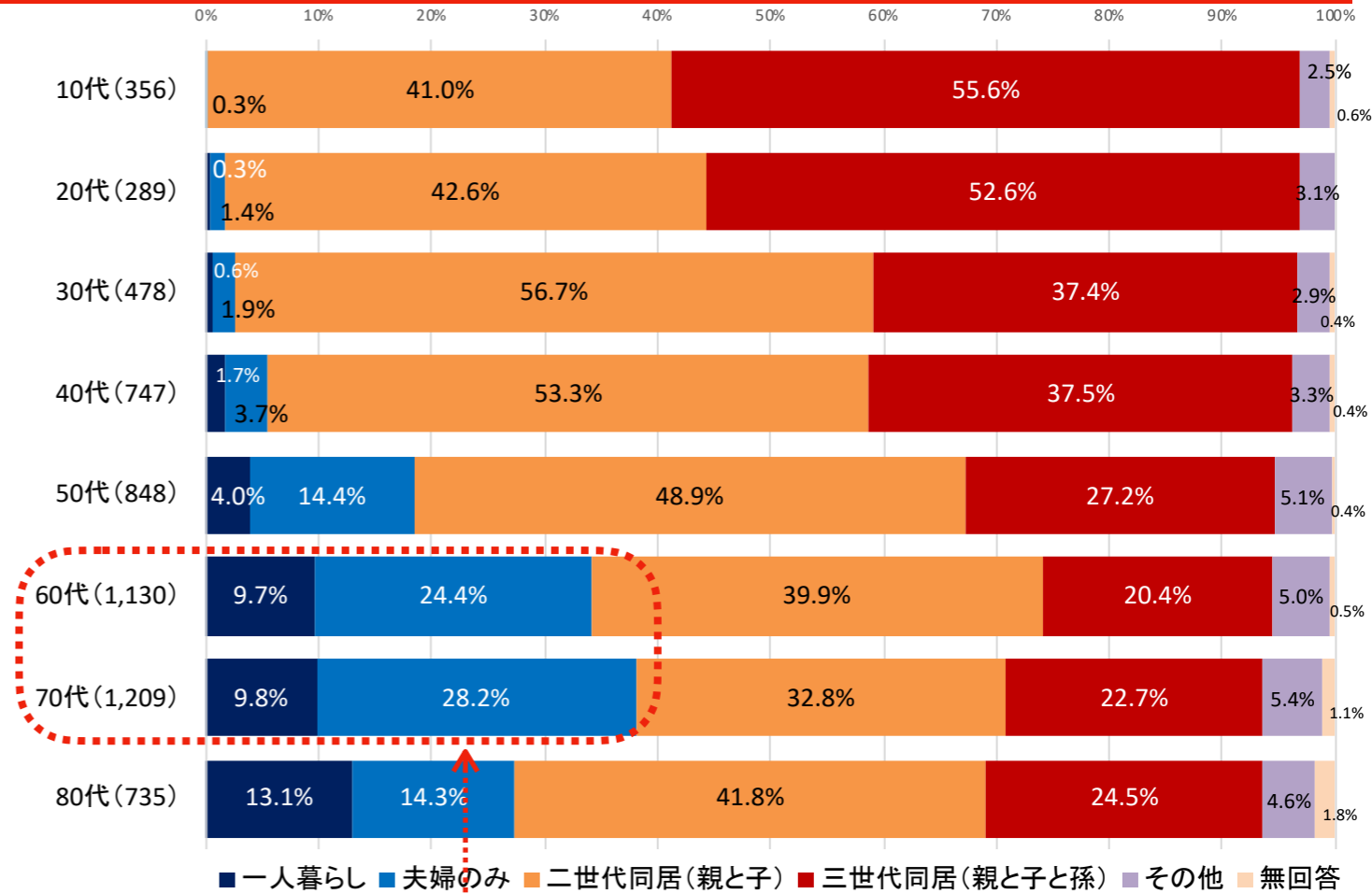
単身＋夫婦のみ世帯は  
大半が高齢世帯！

単身＋夫婦のみ世帯の年代構成

単身＋夫婦のみ世帯の年代構成をしてみると...

## 年代別の家族構成

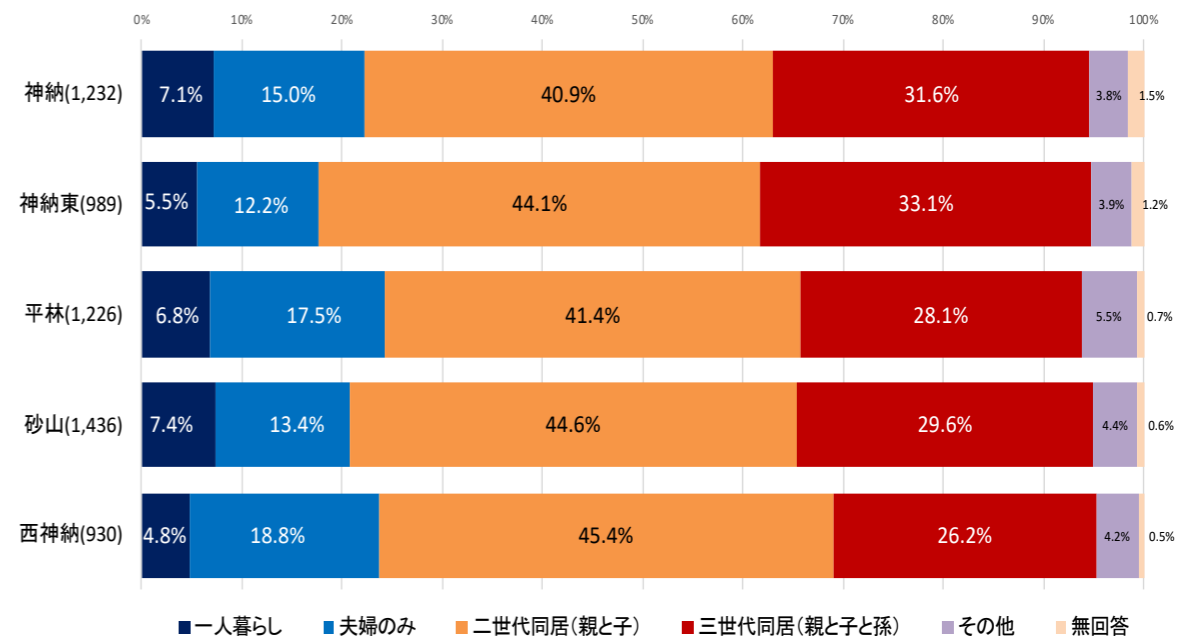
※括弧内の数値は回答者数



60～70代の3～4割は単身もしくは夫婦のみ世帯

## 地域別の家族構成

※括弧内の数値は回答者数



※地域別でそれほど大きな差は見受けられない

# 年代別・男女別の日常的な交通手段

村上市・神林地区 (2023)

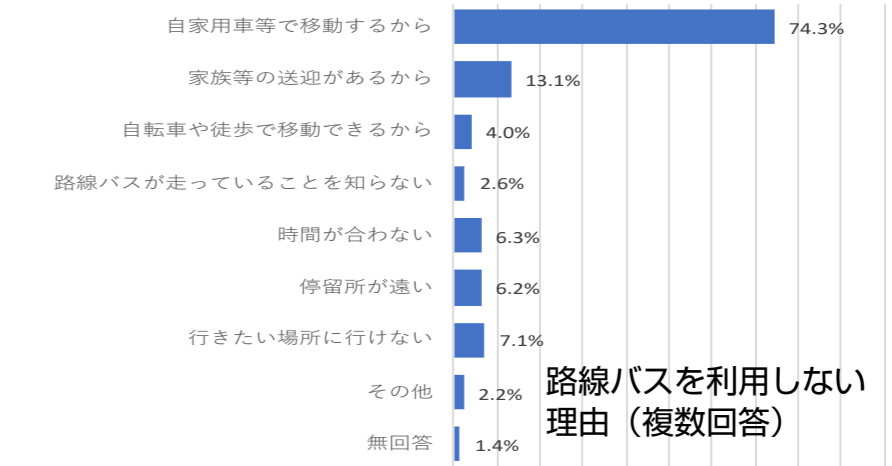
※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））／主な交通手段1つを抽出して集計

## 移動手段は自動車（自ら運転）が大半

公共交通は交通手段としてはほとんど挙がっていない

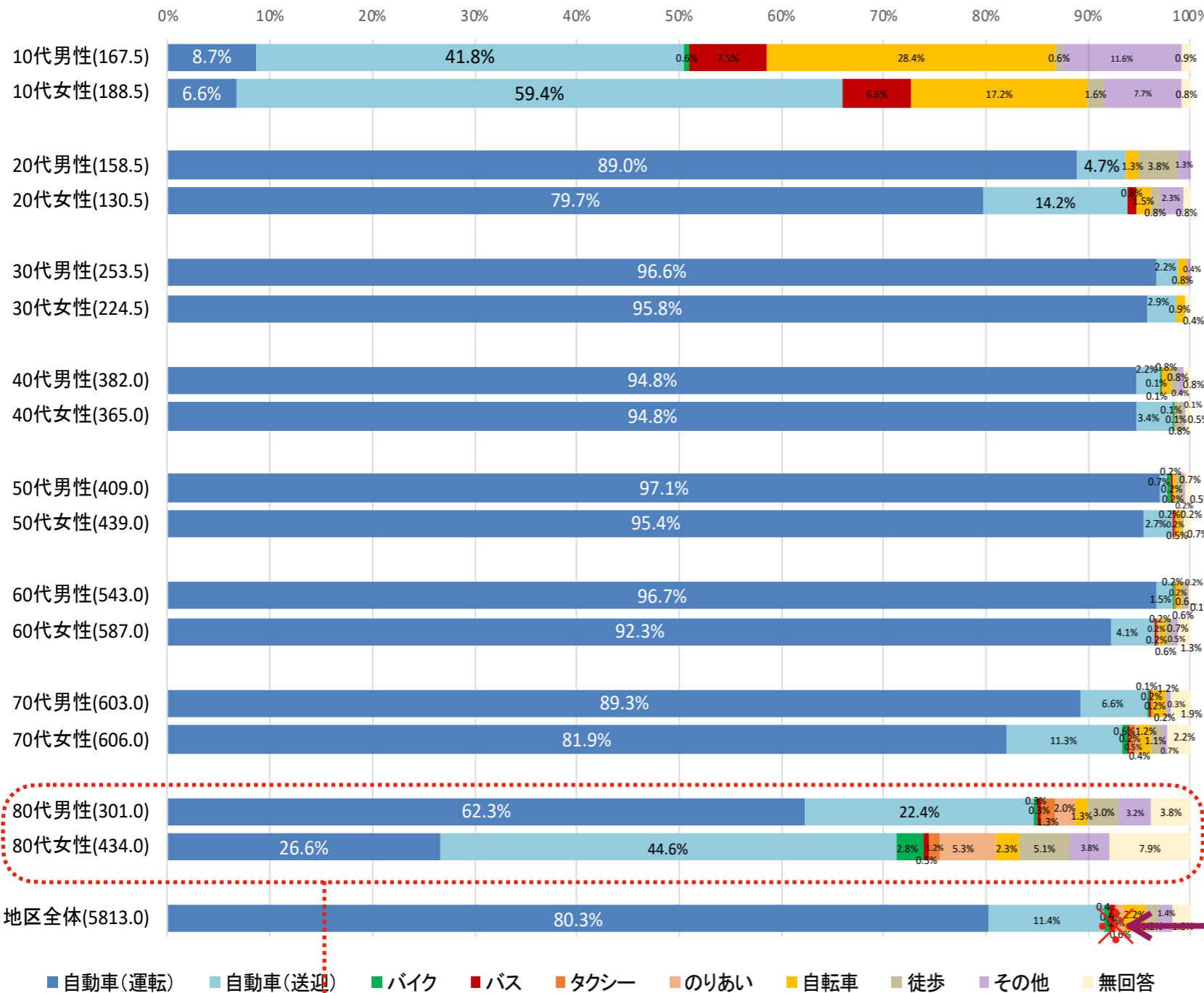
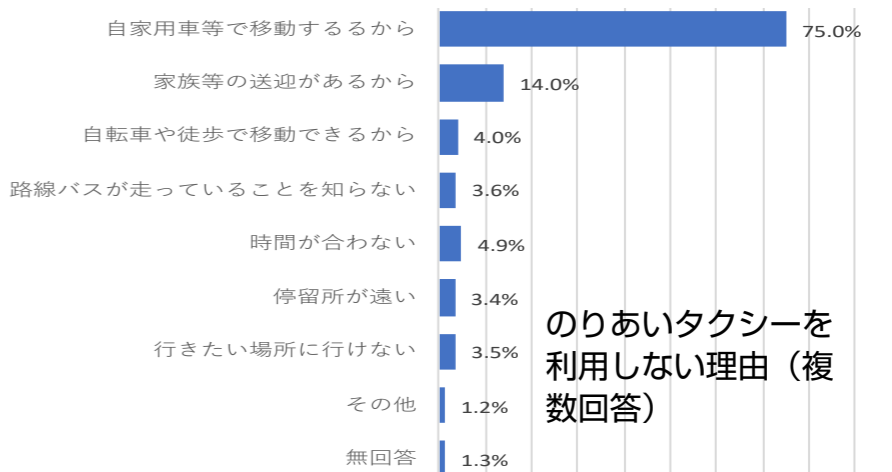
### 月数回以上、路線バスを利用する

34人／5,813人（全体の0.6%）  
（年数回以上は60人（全体の1.0%））



### 月数回以上、のりあいタクシーを利用する

47人／5,813人（全体の0.8%）  
（年数回以上は108人（全体の1.9%））



80代になると自動車（自ら運転）の割合が低下  
女性は半数近くが「車での送迎」が主な移動手段に

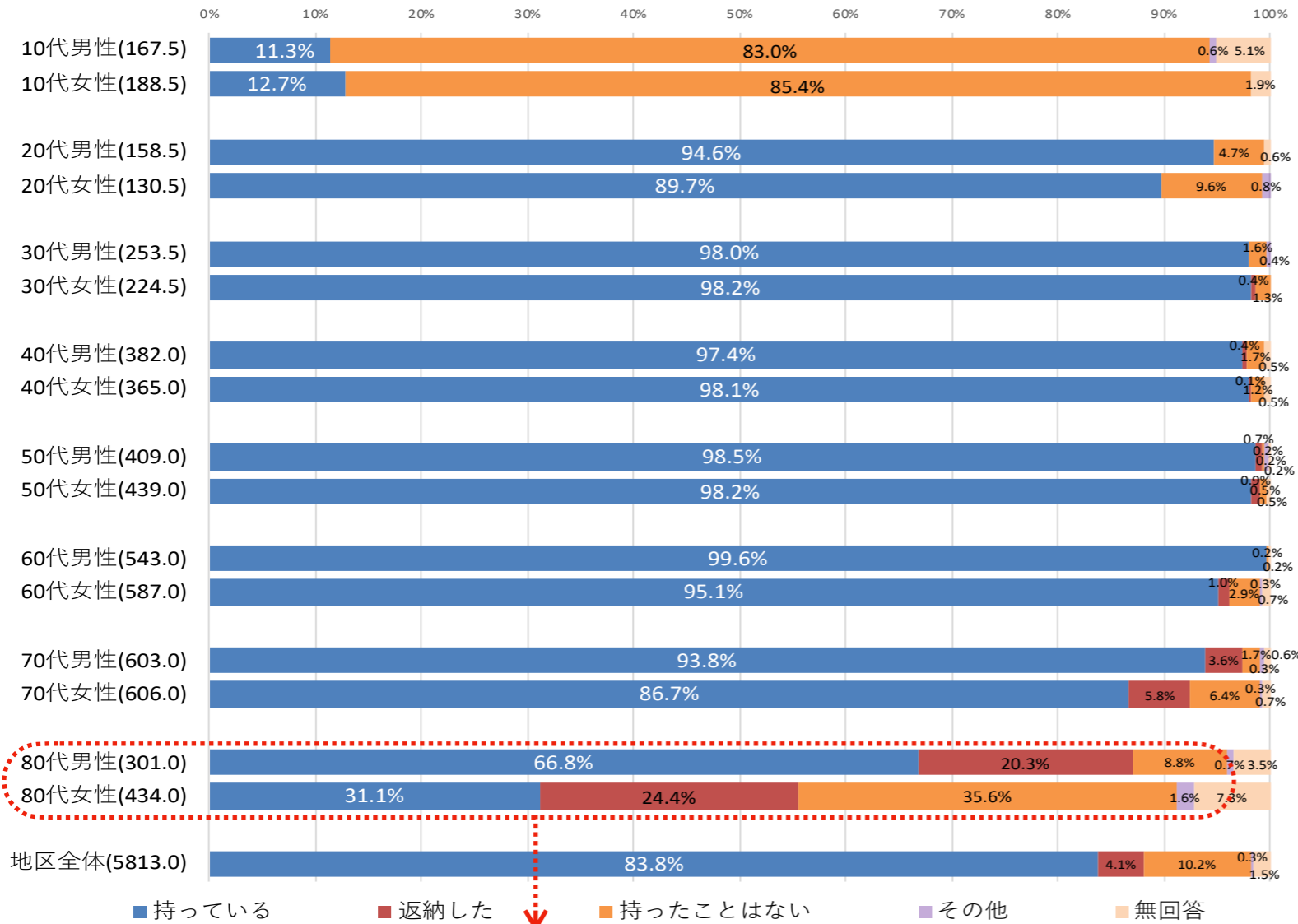


高齢になると親族等による自動車での送迎が  
主な交通手段となっている。

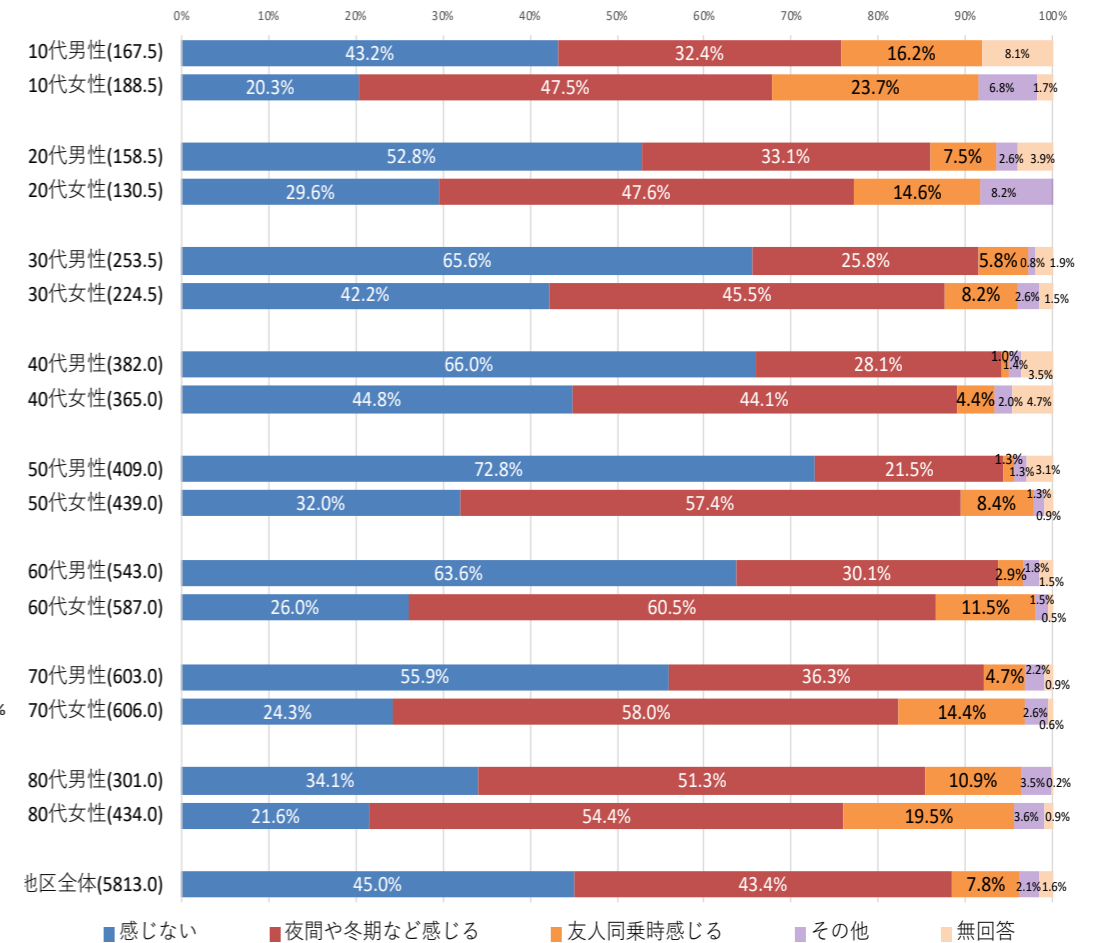
# 自動車運転免許保有状況

村上市・神林地区 (2023)

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



## 運転への不安



男性に比べ、女性は運転に不安を感じている割合が高い。（特に夜間や冬期）

## 80代になると免許なし（返納含む）の割合が増加

※80代女性は、免許返納が2割以上+もともと持っていないが3割以上

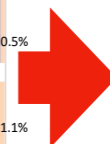
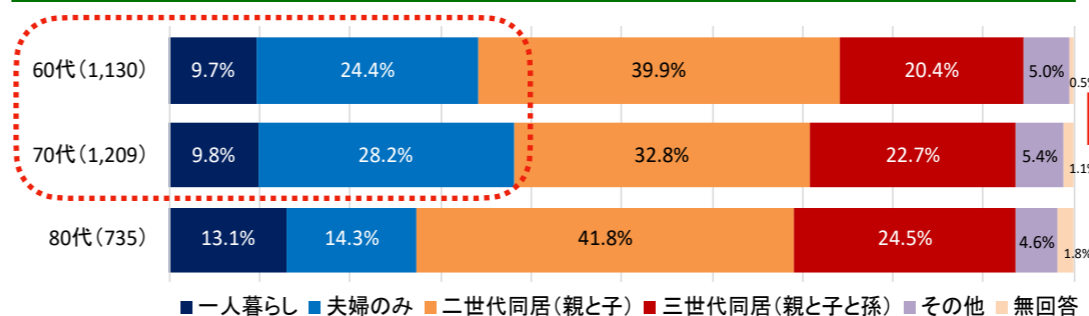
注意！

（今まで）  
80代になり自分で車の運転ができなくなっても、**親族等による車での送迎**で移動手段は確保されてきた。



（これから）  
今の70代以下は、**独居・夫婦のみ世帯が多い**。親族等による車での送迎を、今までと同じようにあてにできるか？

### 年代別の家族構成（再掲）



ほとんど使われてはいないが、だからといって**公共交通はこのままで本当によいのか？!**

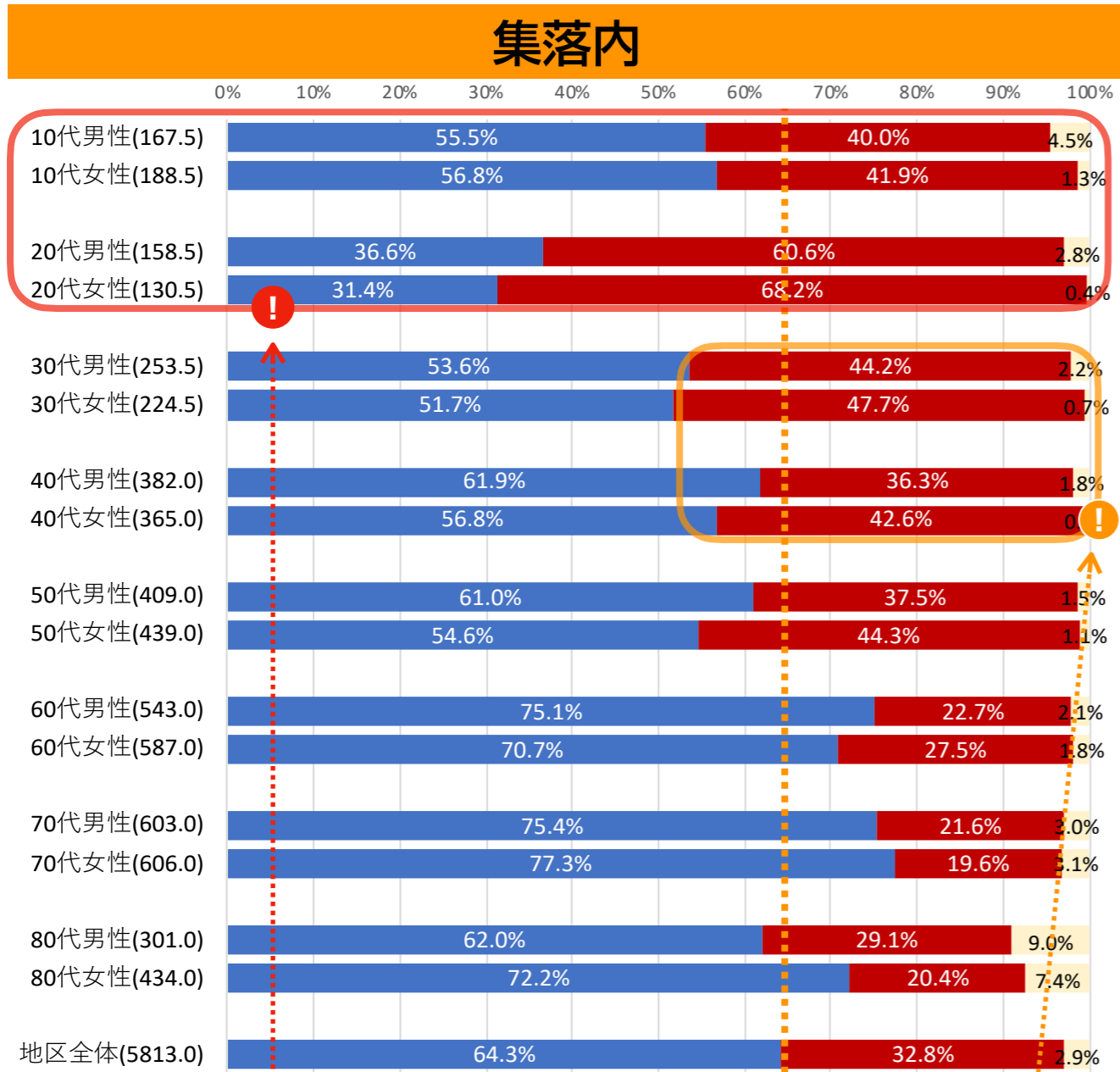


# 家族以外の相談相手の有無

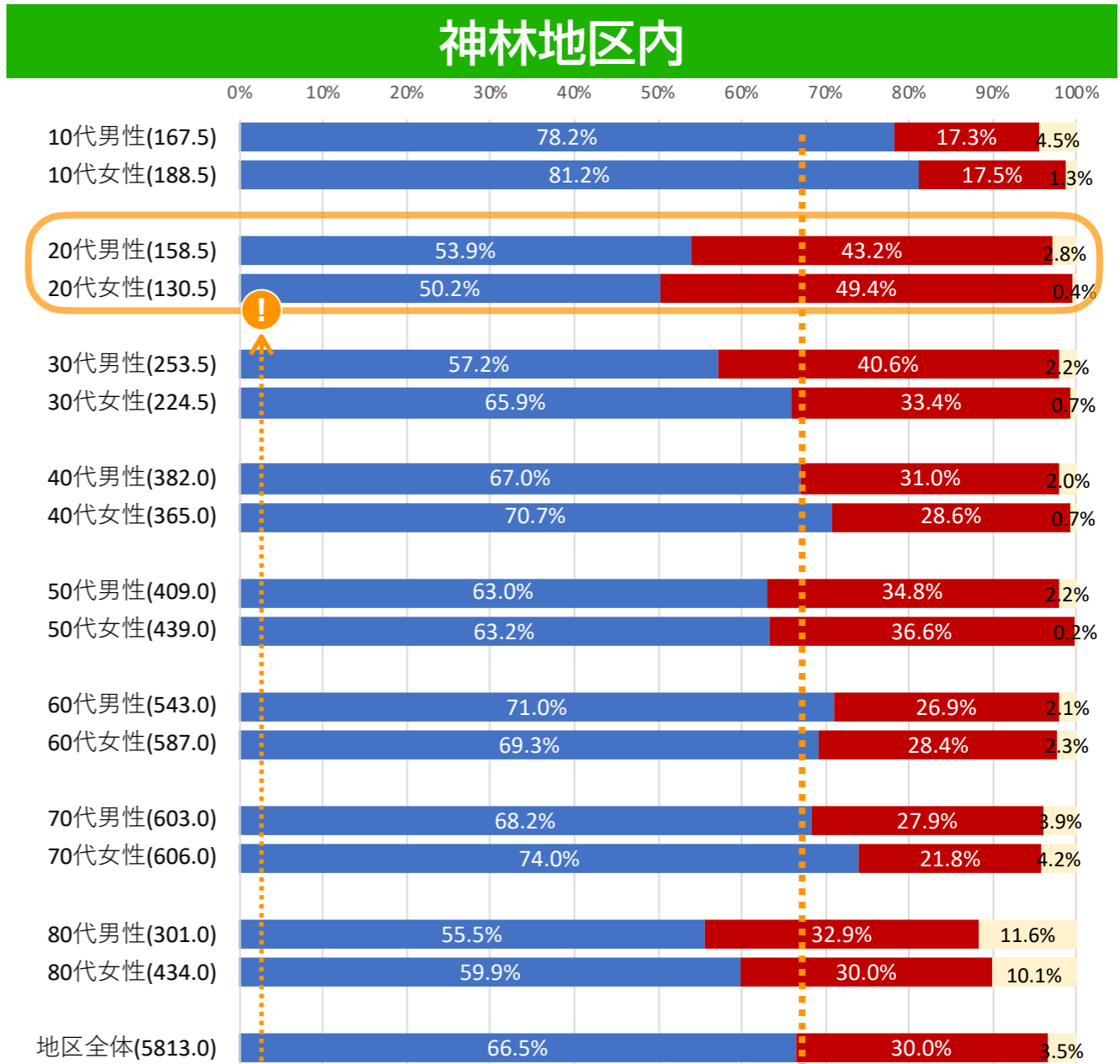
村上市・神林地区 (2023)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))

## 集落内・地区内共に約2/3が相談相手がいると回答



**【注意】**  
 10代は4割／20代は6～7割が  
 集落内に相談相手がない (30～40代も4割)

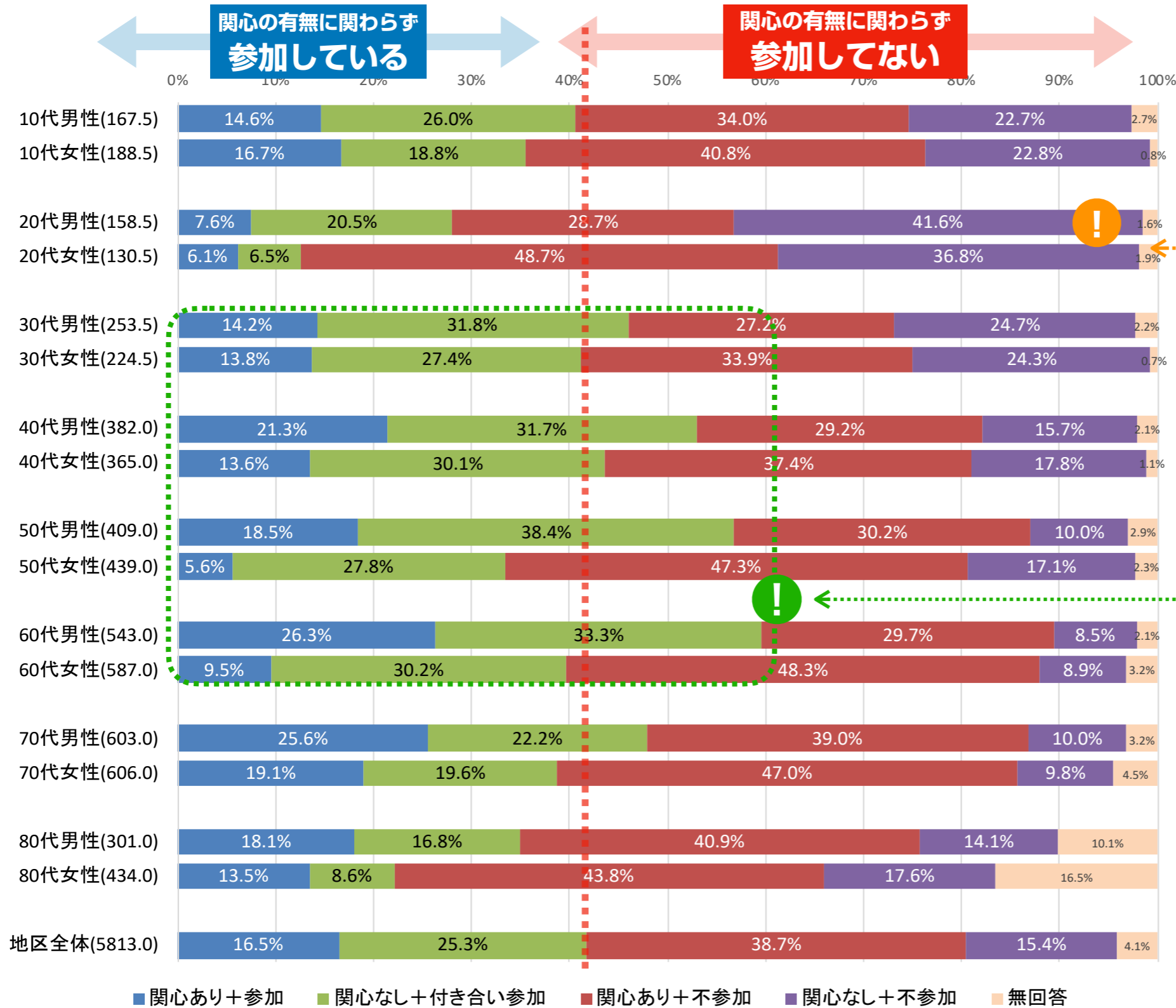


**【注意】**  
 20代は約半数が地区内にも相談相手がない

# 地域活動への関心

村上市・神林地区 (2023)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算) )



**【注意！】**  
20代は  
関心なし+不参加  
が3~4割

30~60代男性は  
4~6割が参加している

関心あり+不参加は  
どの年代でも  
3~5割いる

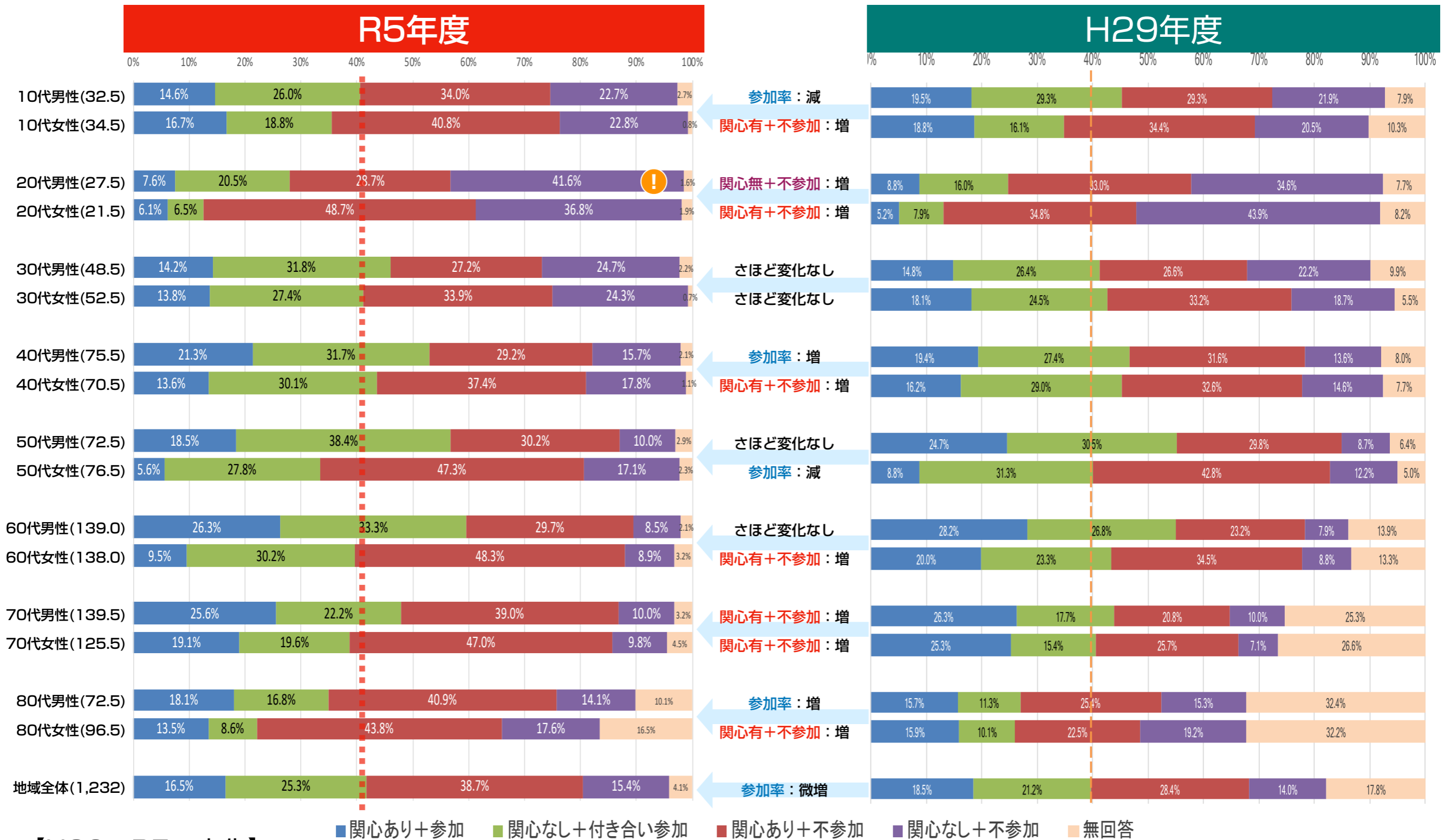
||  
参加の機会・方法の  
さらなる多様化を！

**4割以上が関心の有無に関わらず地域活動に参加している**  
女性は「関心があっても参加していない」割合が男性に比べて高い。

# 地域活動への関心（H29結果との比較）

村上市・神林地区（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



## 【H29→R5の変化】

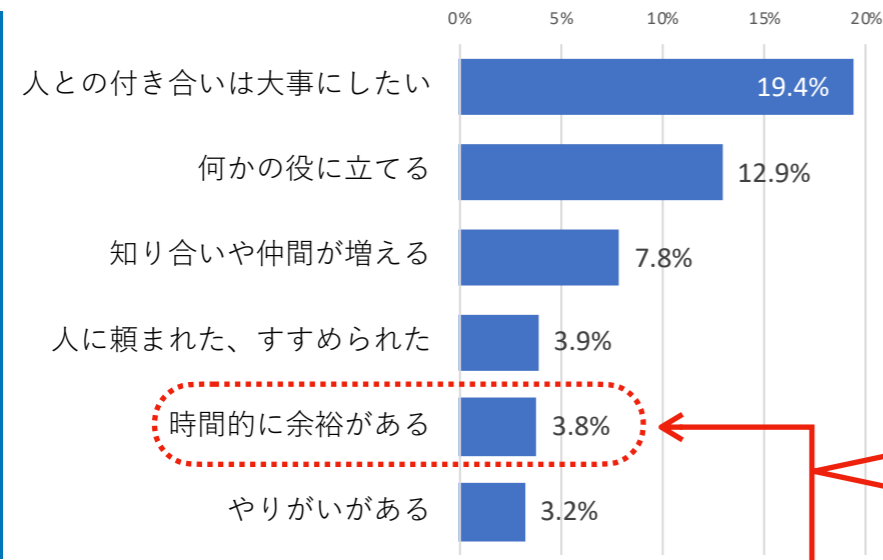
- 参加率（「関心あり+参加」および「関心なし+付き合い参加」を合算した割合）は微増
- 「関心なし+不参加」の割合が20代男性で増加



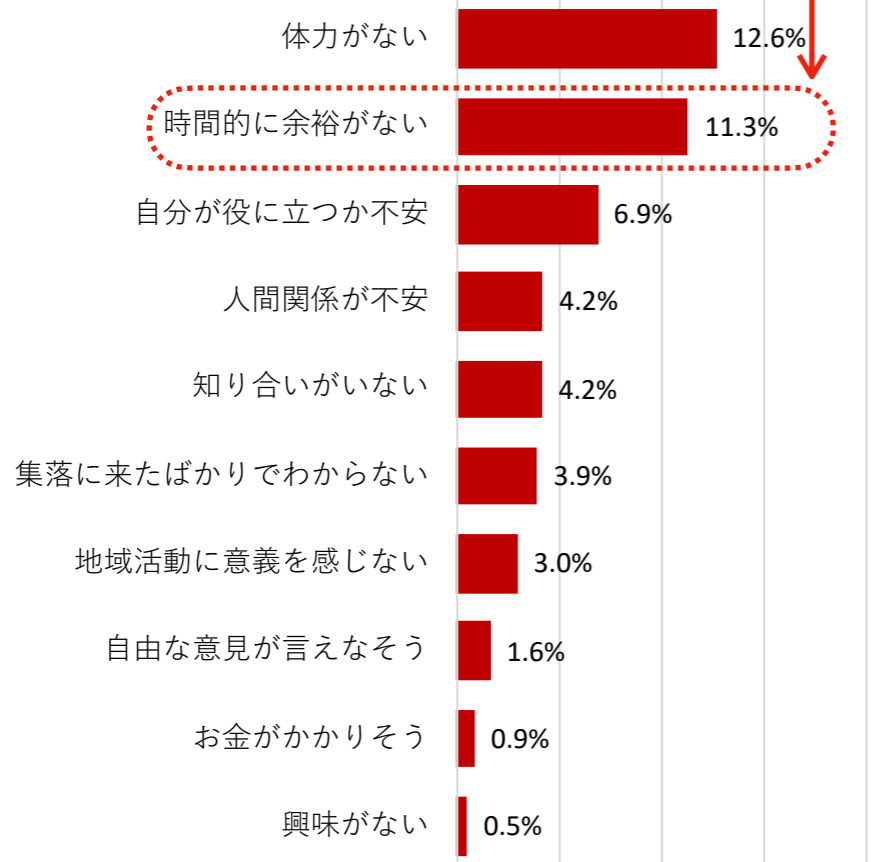
# 地域活動への関心 (回答理由)

※回答総数に対する回答割合 (割合が高いほど、多くの人が○を付けている) で集計。回答割合が高かった順番でグラフを作成。

参加している人の理由



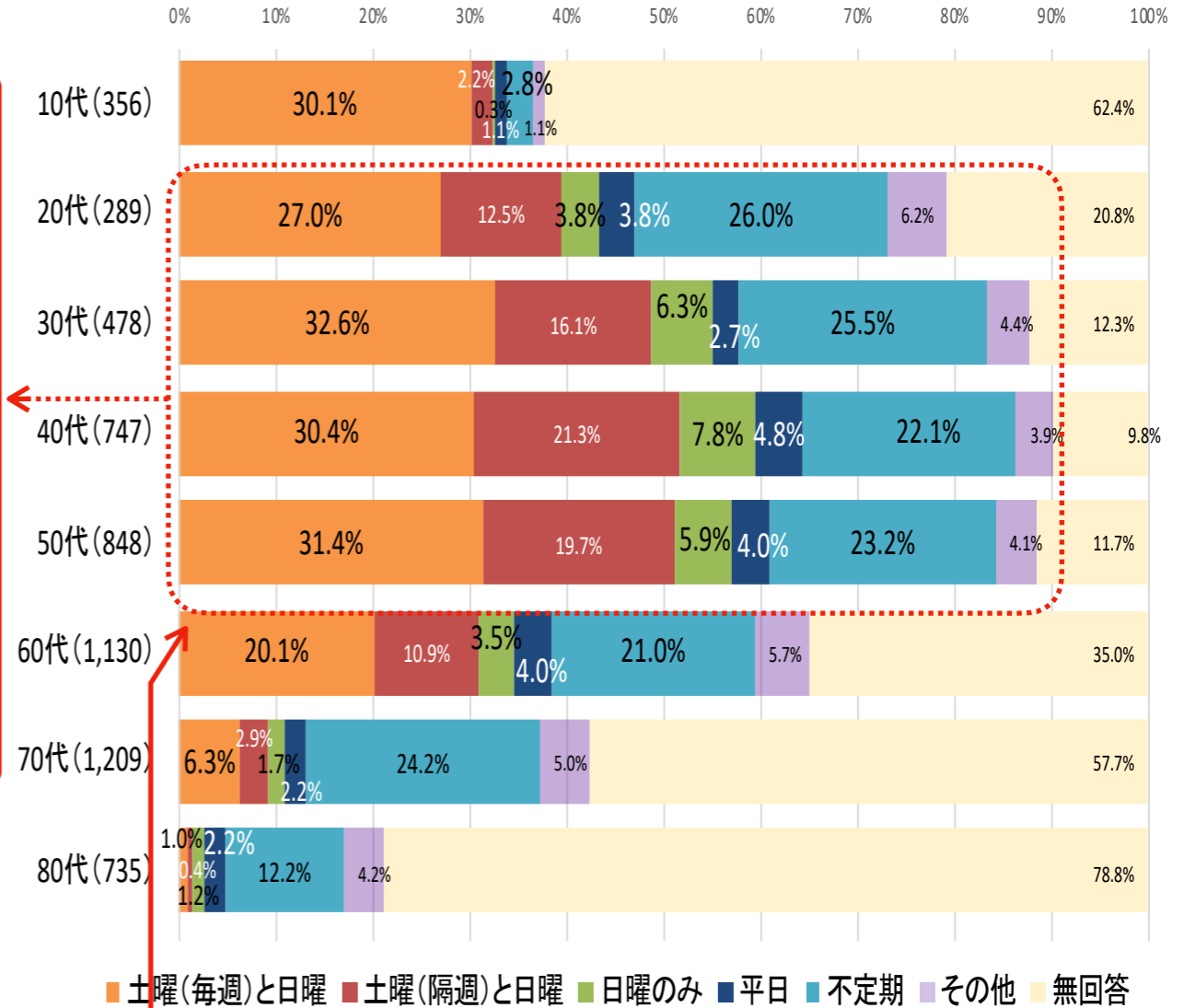
参加していない人の理由



必ずしも、時間に余裕があるから参加している訳ではない。  
働いている世代は、必ずしも土日が休みではない。多様な参加の方法・工夫・配慮が必要。

# 休日はいつか？

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))



20~50代は必ずしも土日は休みではない

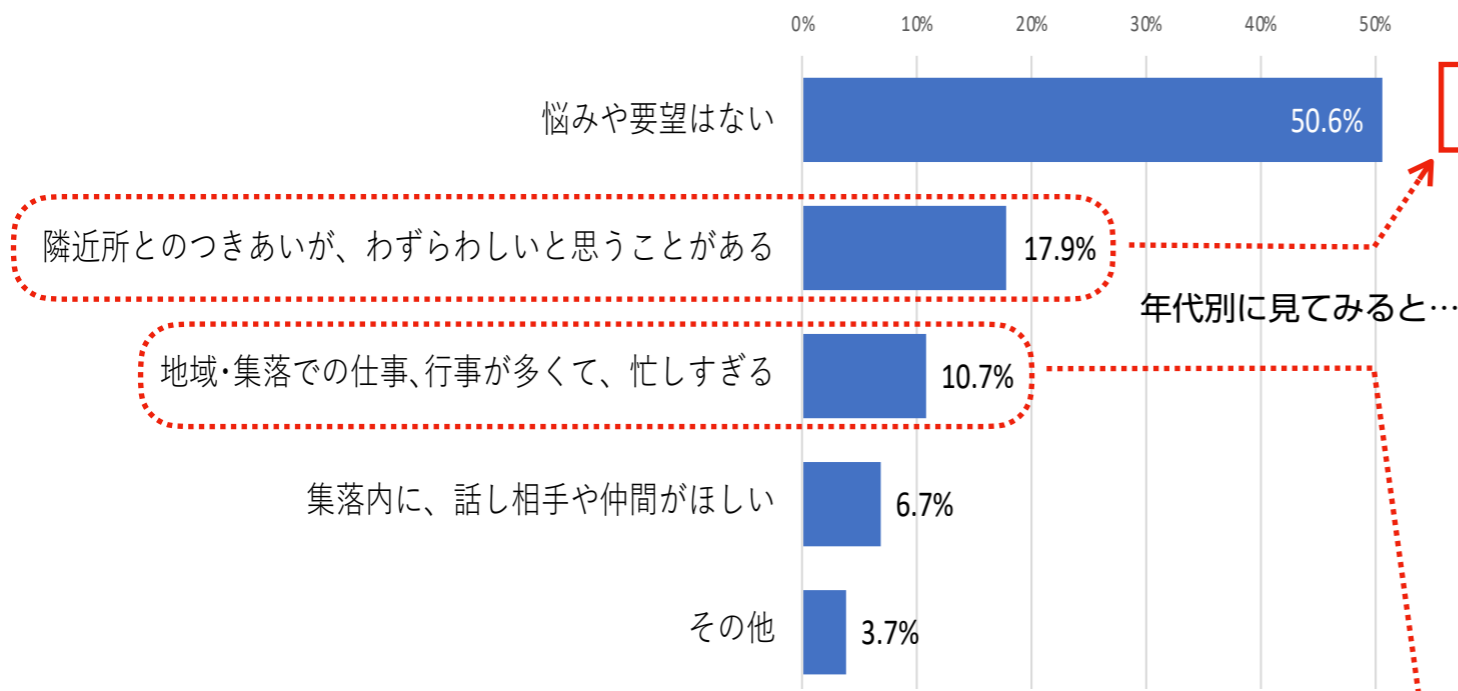
土曜日が毎週休み **3割以下**  
日曜日が毎週休み **4~6割**  
20代で週末が休みなのは4割強

この世代の参加を求めるのであれば  
曜日設定の配慮が不可欠！

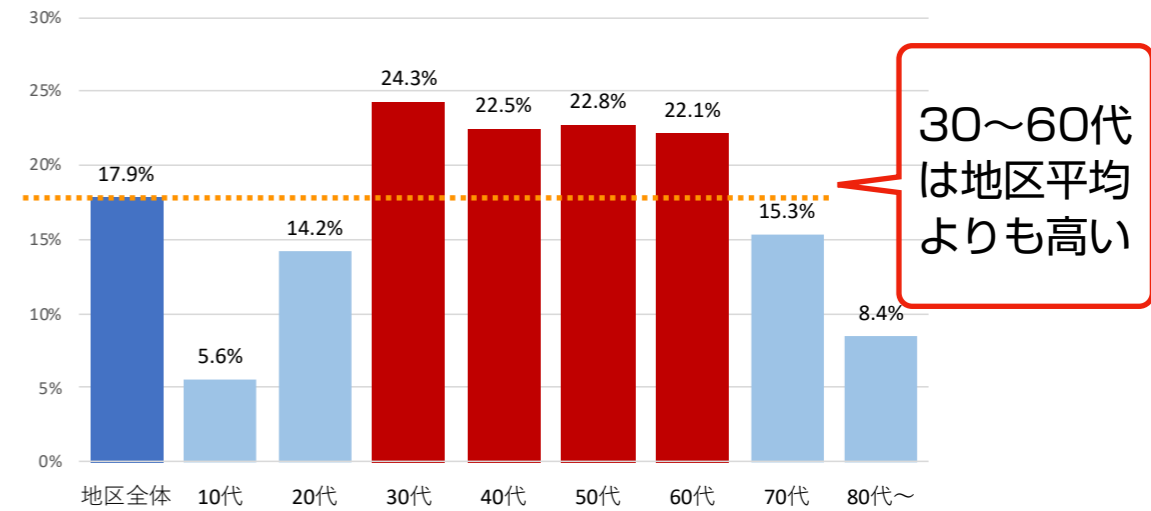
# 近所づきあいでの悩み

村上市・神林地区 (2023)

※回答総数に対しての回答割合（割合が高いほど、多くの方が○を付けている）で集計。回答割合が高かった順番でグラフを作成。



隣近所とのつきあいが、わずらわしいと思うことがある

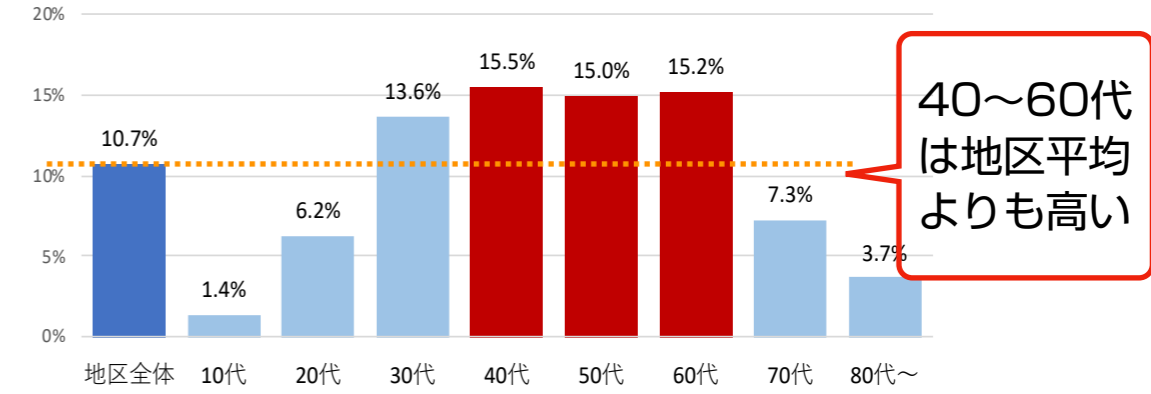


30～60代は地区平均よりも高い

**地区全体では半数以上が「悩みなし」**

昔ながらの近所づきあいのやり方が、中堅世代の価値観に合わない部分が出てきている!?

地域・集落での仕事、行事が多くて、忙しすぎる



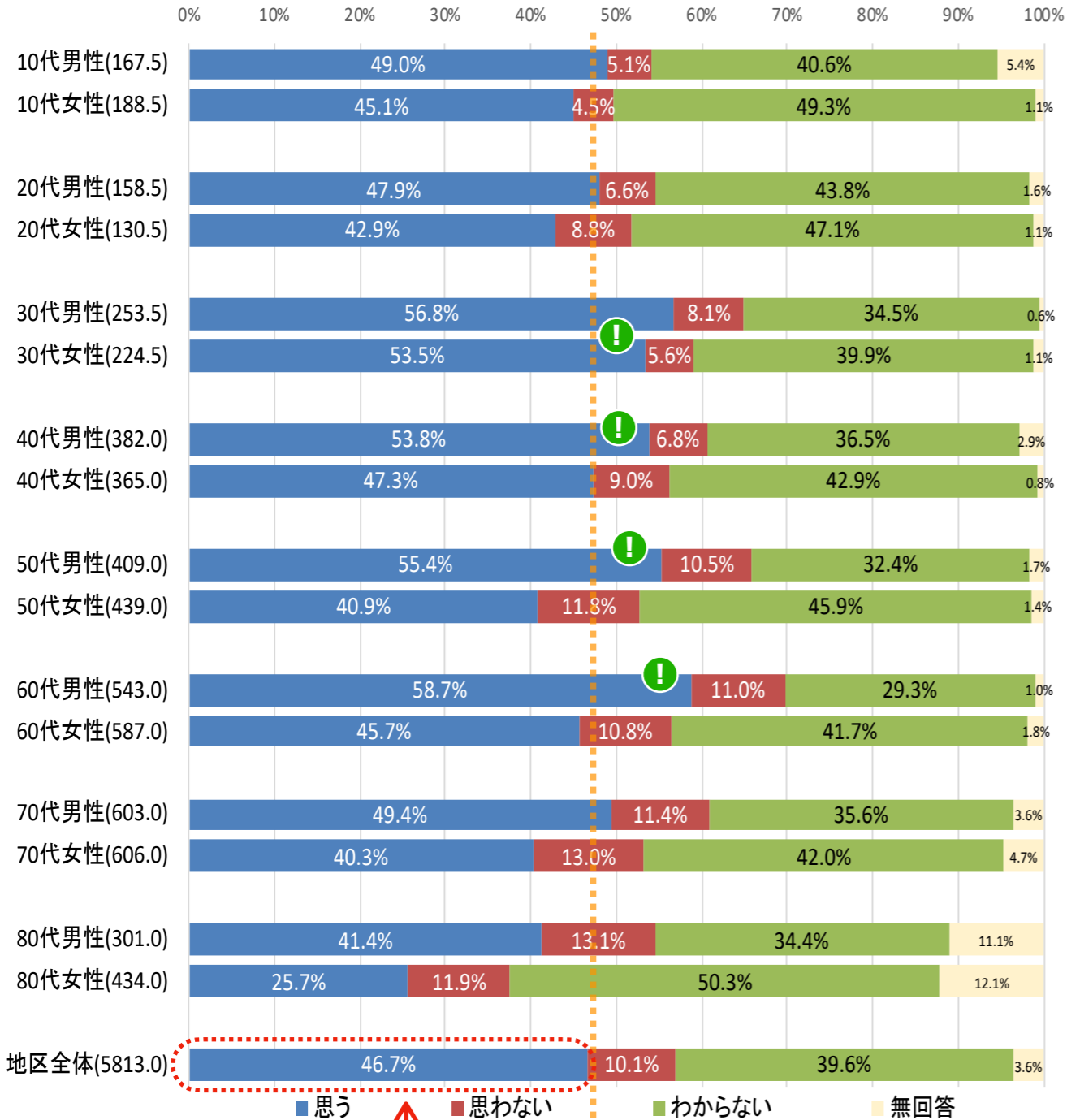
40～60代は地区平均よりも高い

地域活動に参加している割合が高い世代が、多忙さ・負担の大きさを、より強く感じている。

人口減少がさらに進展する将来を見据え、地域の営みを持続可能なものとするためには、これまでのやり方・活動内容を見直し、負担の軽減を図っていくことが不可避！

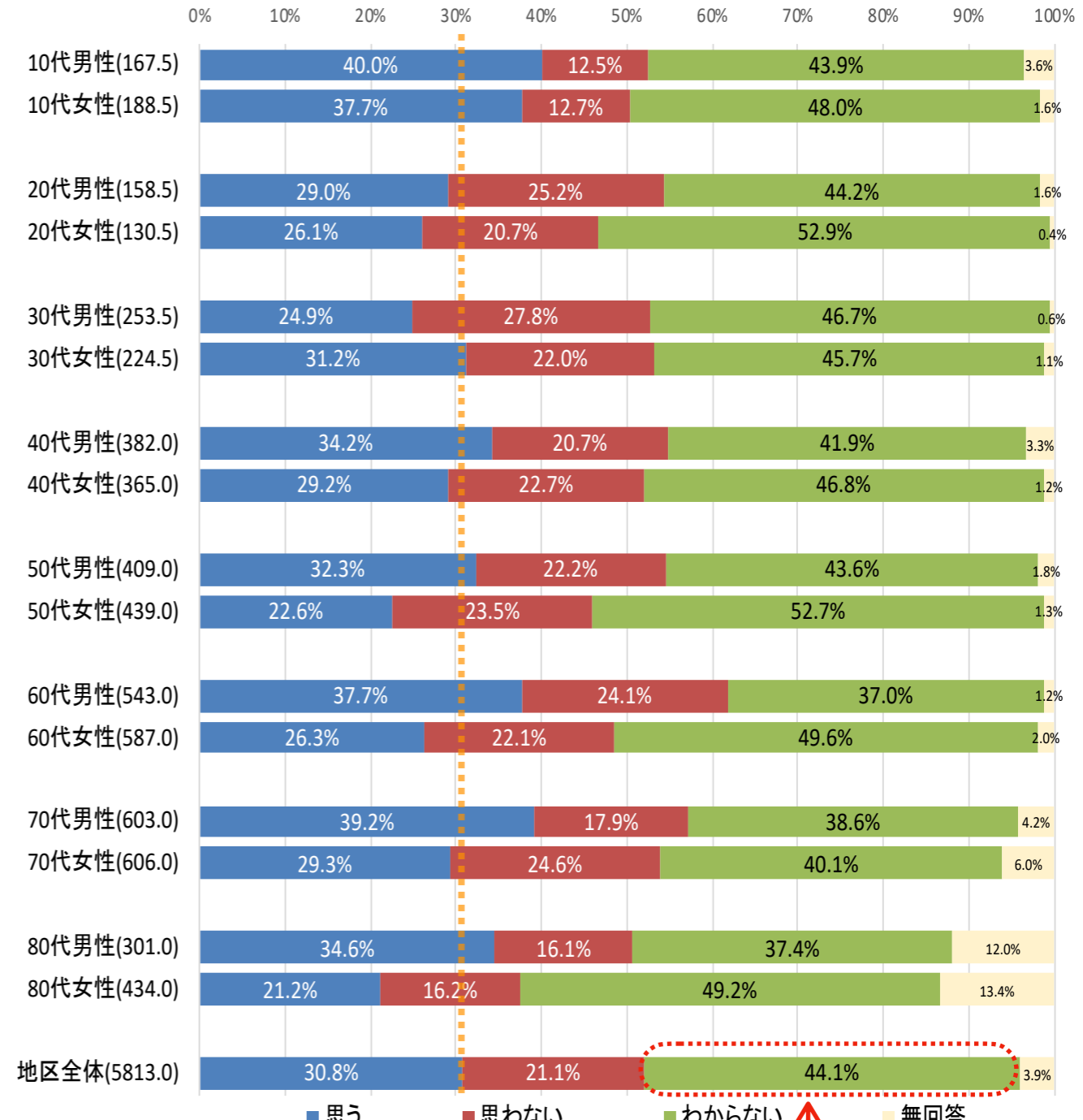
# 定住受入の必要性

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



地区全体では半数近くが「必要」  
30代と40～60代男性は「必要」が5～6割

# 他地域との交流の必要性

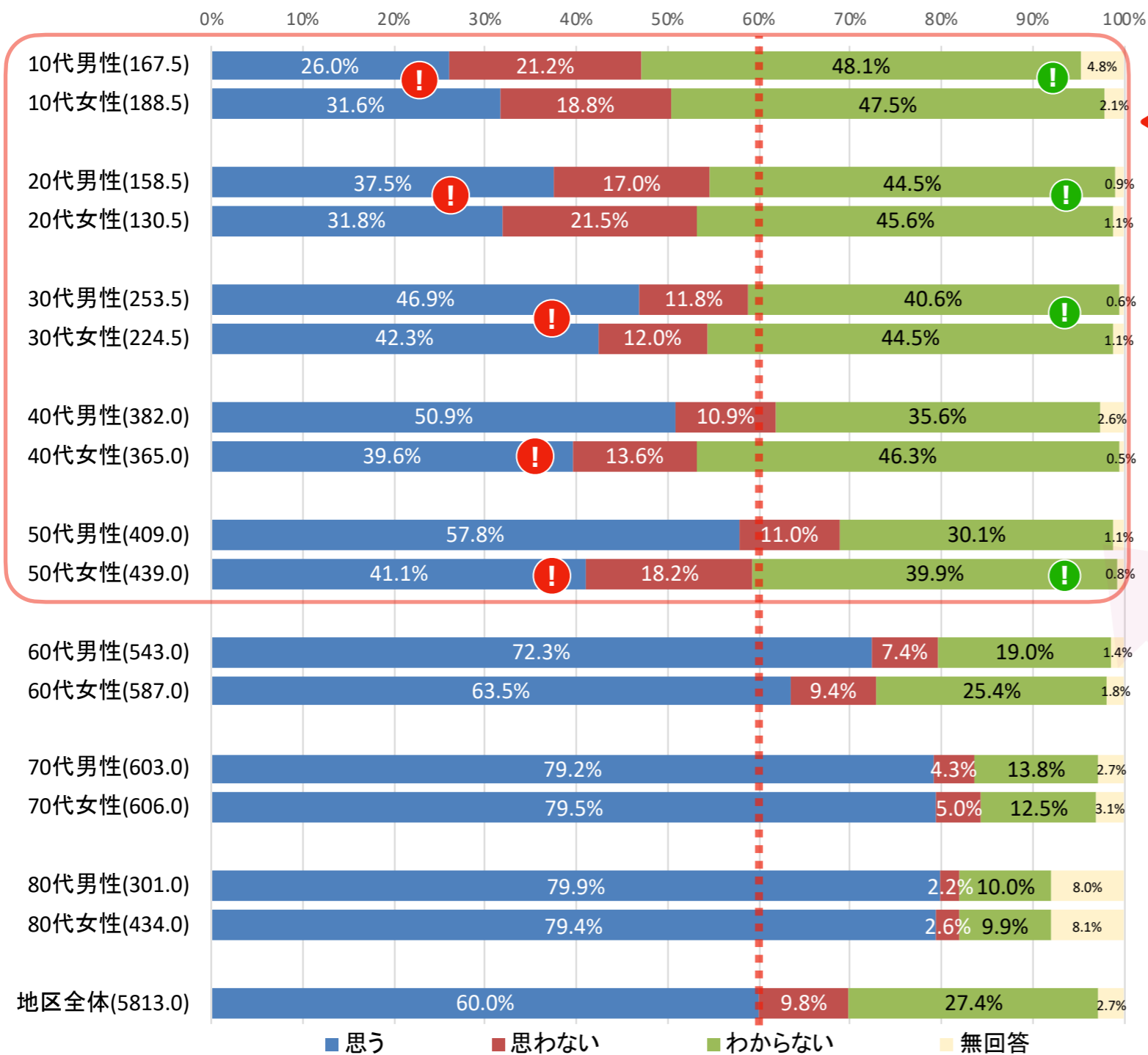


地区全体では4割以上が「わからない」  
どの年代も賛否は半々→全体的に積極姿勢ではない

# この地域に住み続けたいと思うか？

村上市・神林地区（2023）

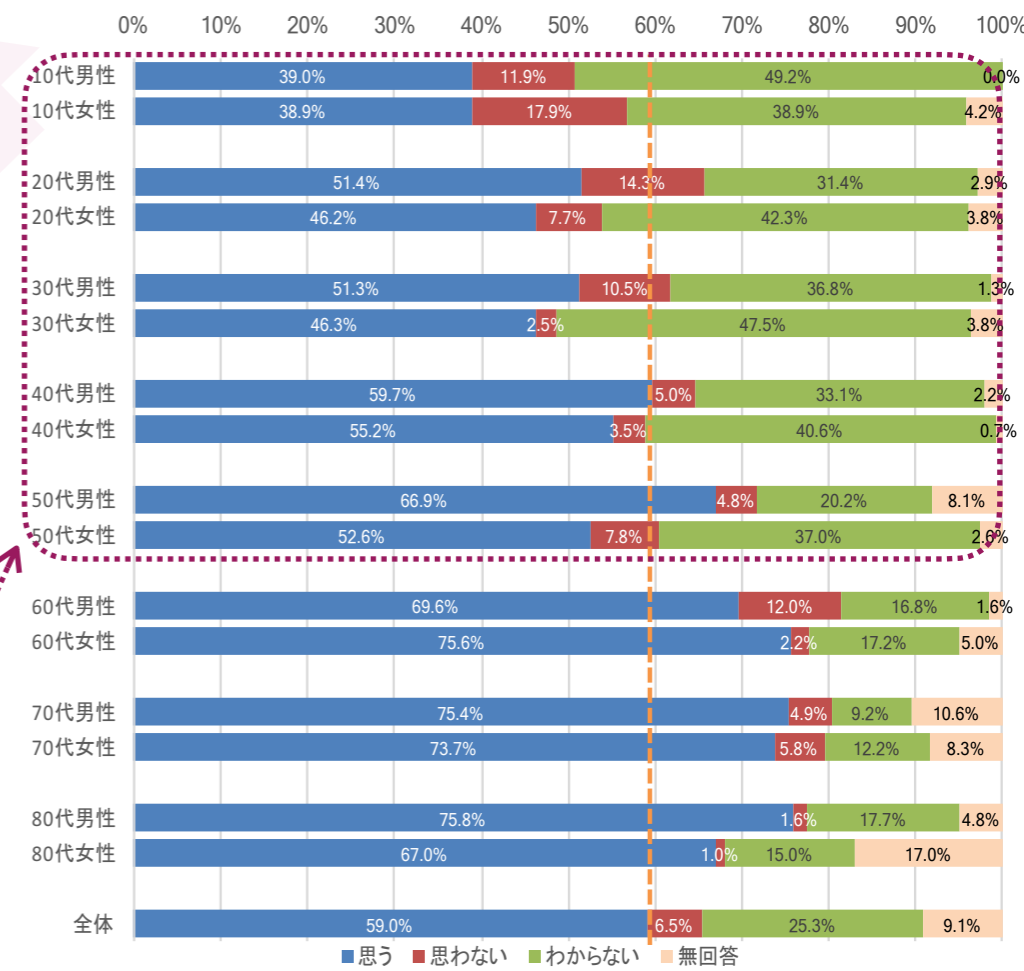
※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



10～30代と40・50代女性の定住意向は3～4割と低い

ただし「わからない」も4割以上（これからの取り組み次第）

## H29年度調査時の定住意向

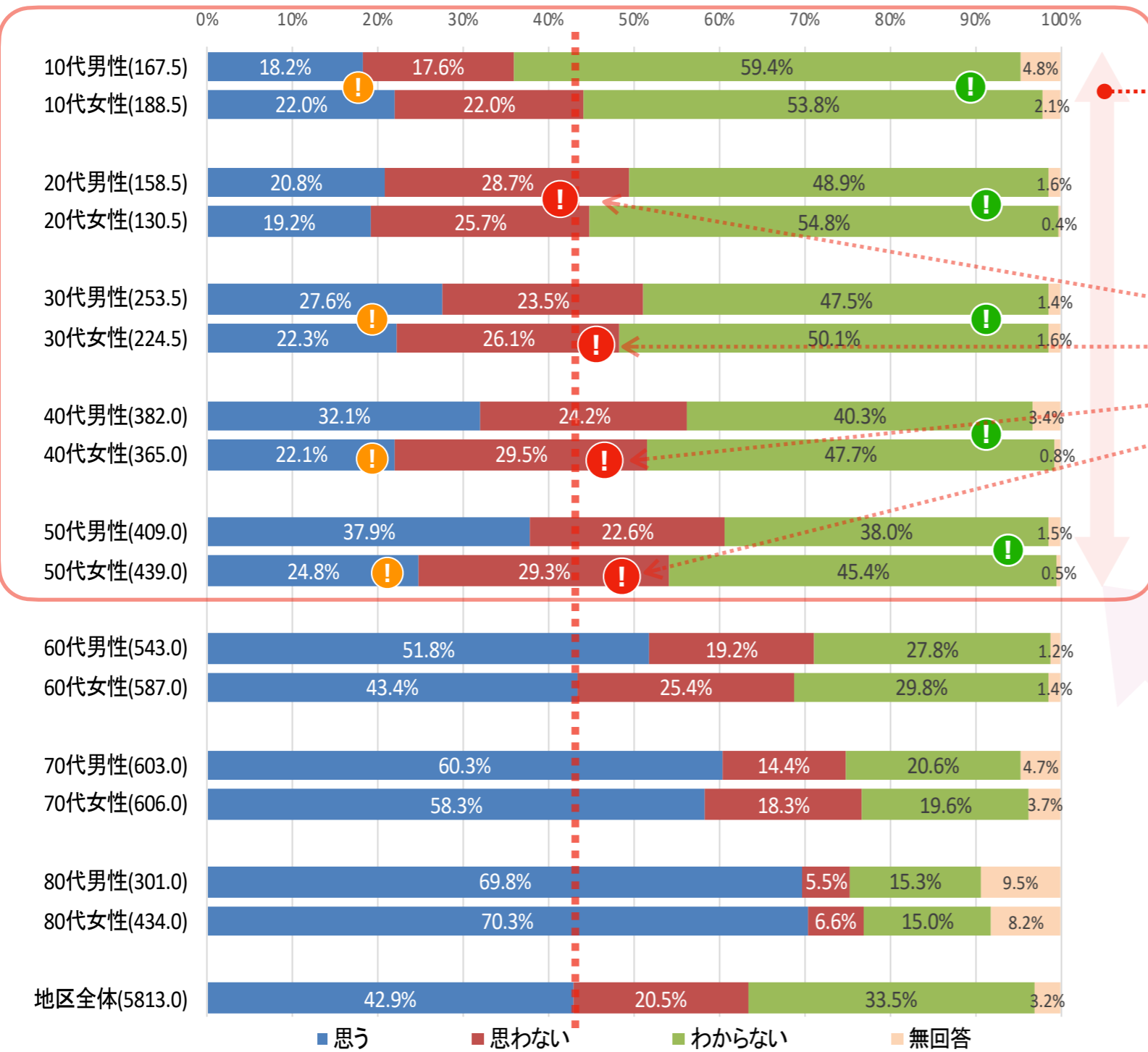


地区全体では「住み続けたいと思う」は6割

【注意！】 前回調査（H29）に比べ、50代以下の定住意向は減少。特に40・50代女性は大幅減。

# 自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？ 村上市・神林地区（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））

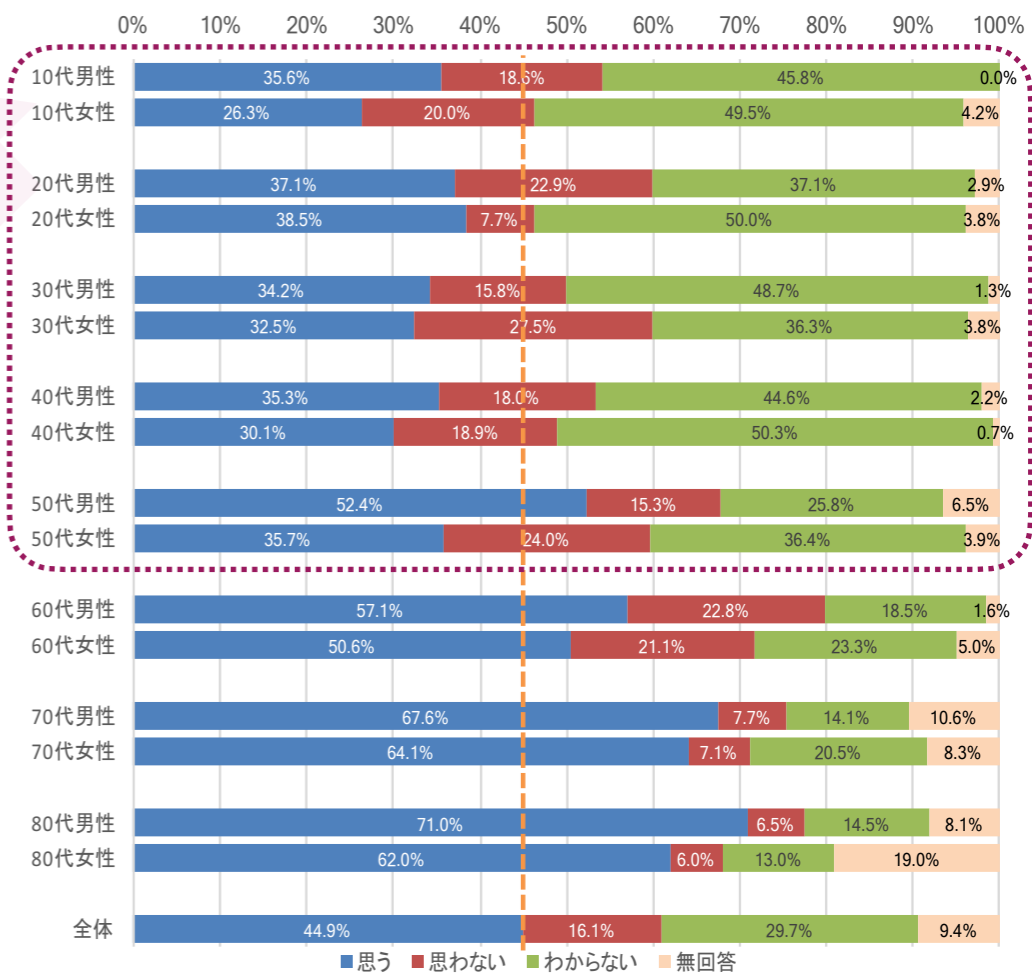


10～40代・50代女性は「住み続けてほしい」が2～3割と低い

ただし「わからない」が4～6割（これからの取り組み次第）

20代と30～50代女性は「住み続けてほしいとは思わない」の方が多い

## H29年度調査時の子どもへの定住希望



## 地区全体では「住み続けてほしい」が4割

【注意！】前回調査（H29）に比べ、60代以下は子どもへの定住希望がかなり低下している（特に女性）

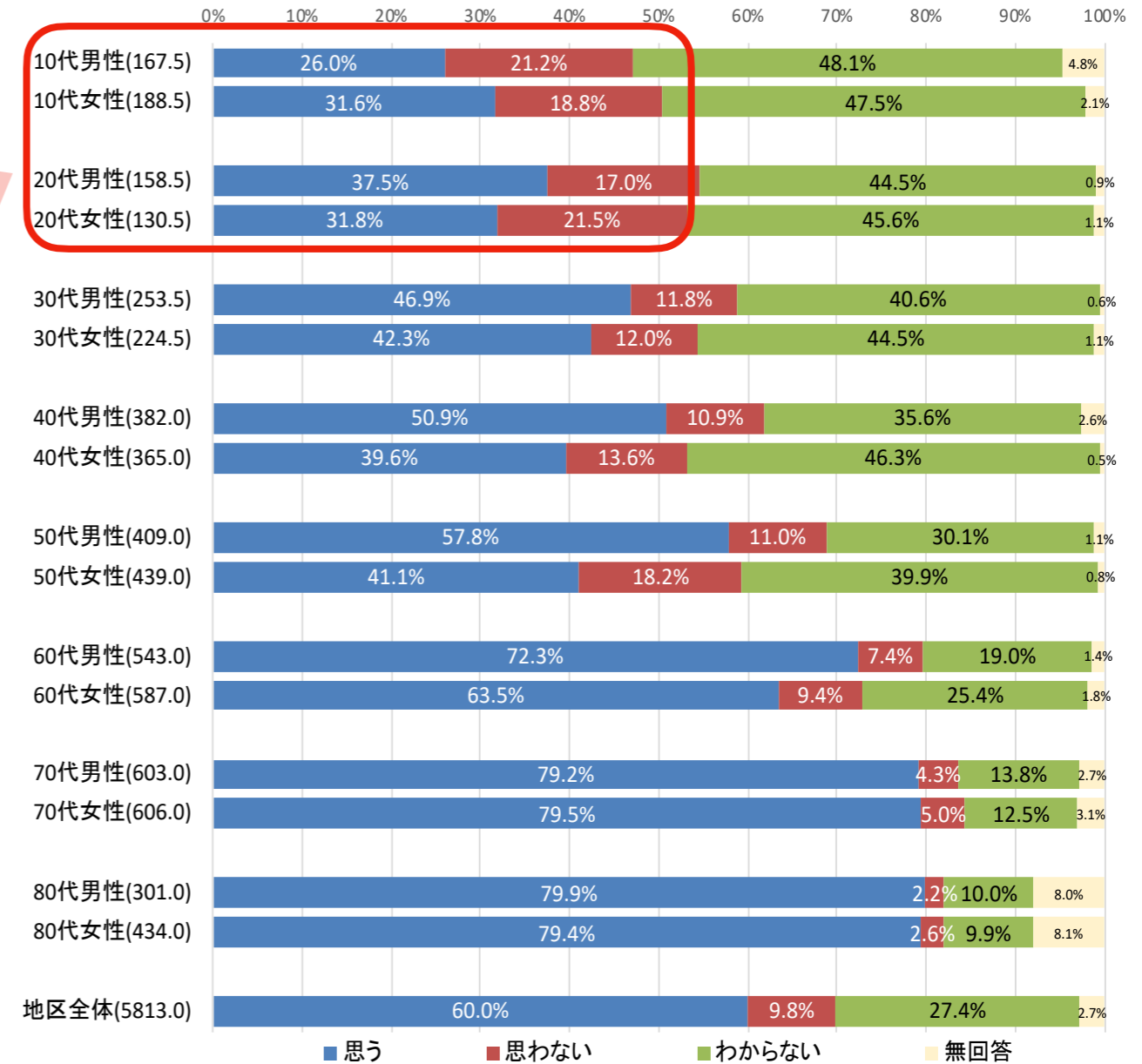
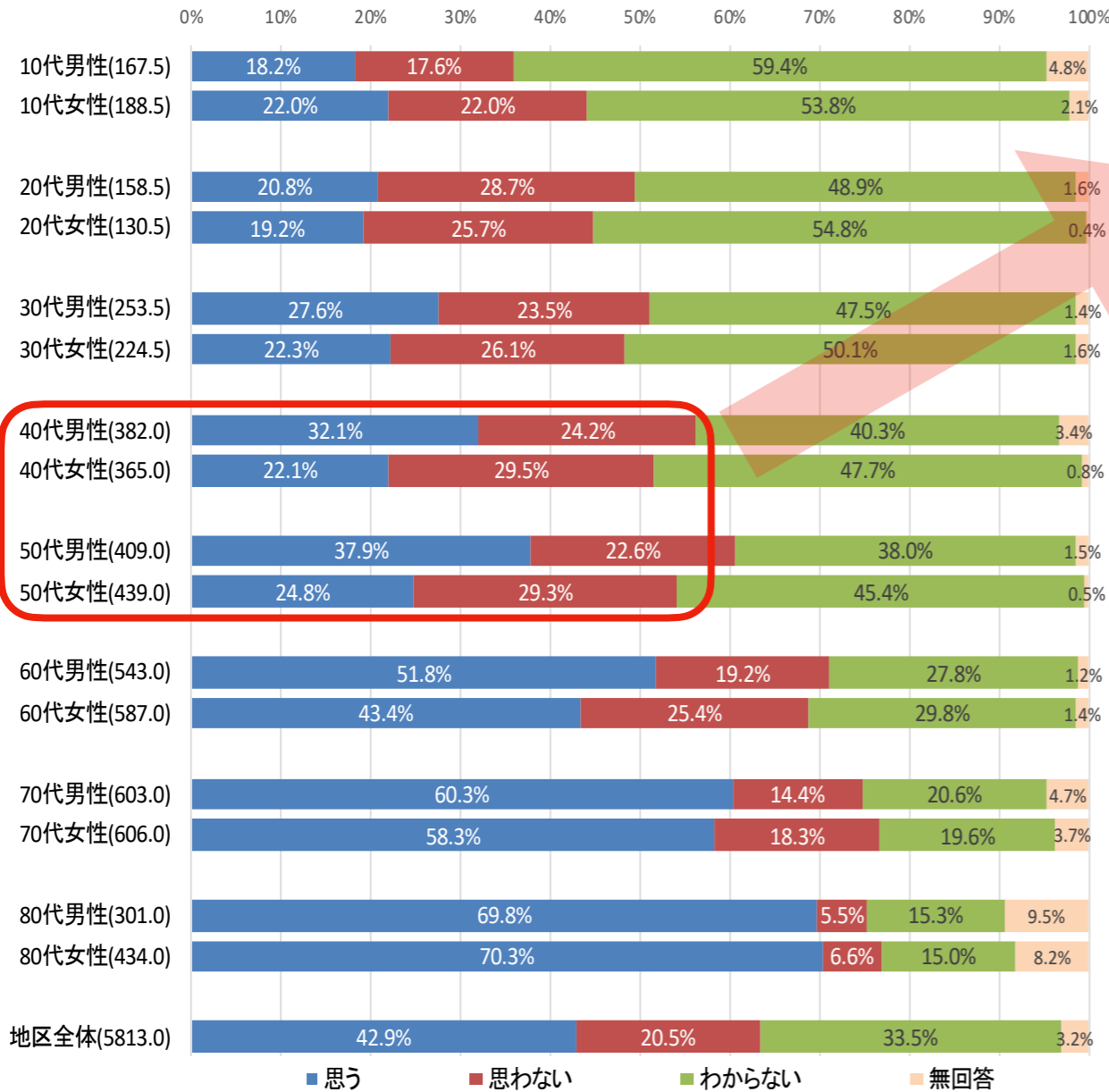


子育て中の母親世代（40～50代）は「子どもに住み続けてほしいと思わない」の割合が高い

子ども世代（10～20代）の定住意向割合は地区全体の約半数

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？

この地域に住み続けたいと思うか？

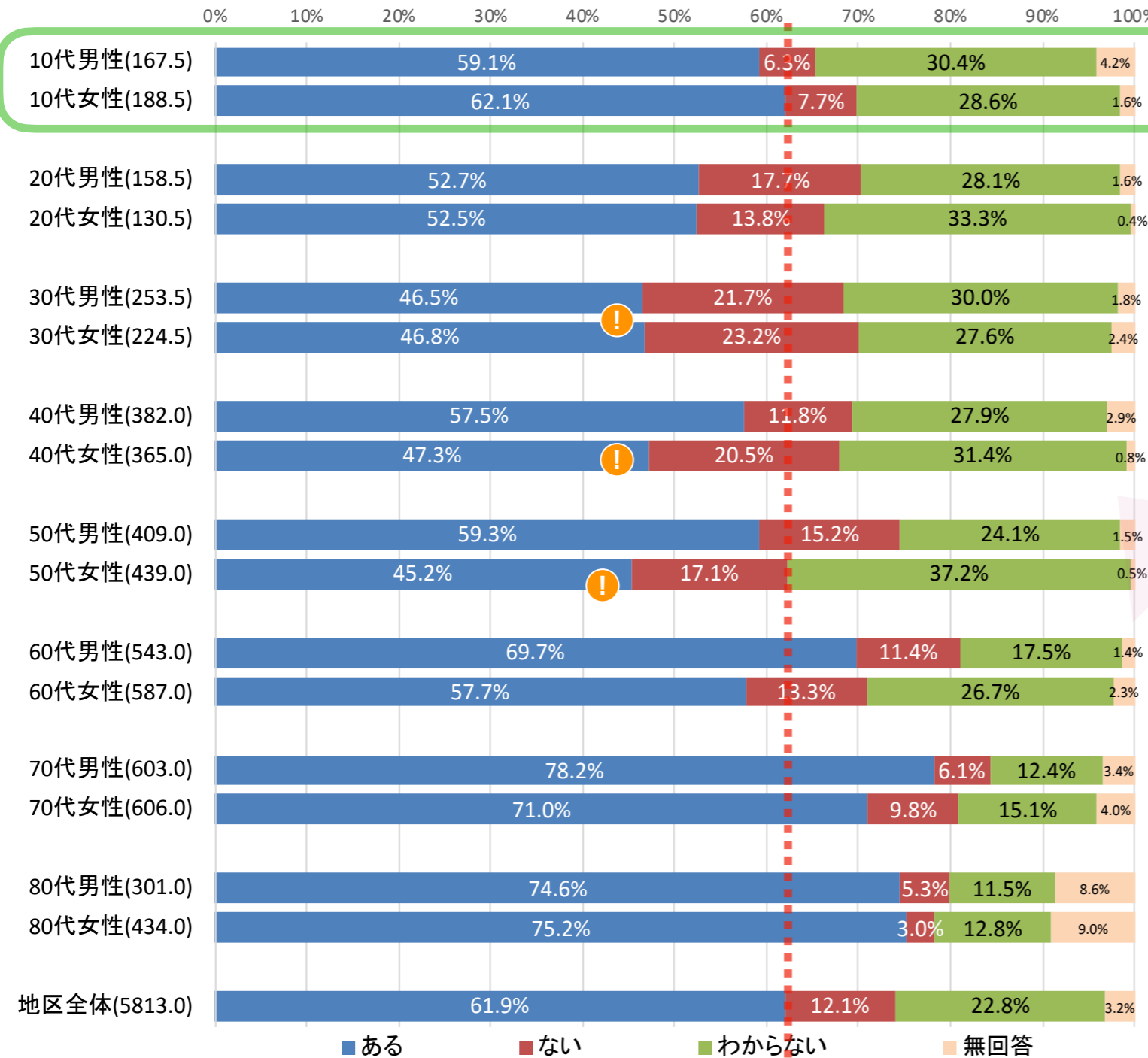


親世代の意向が、子ども世代の意向に影響していないか?!

# 地域への愛着の有無

村上市・神林地区 (2023)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算) )

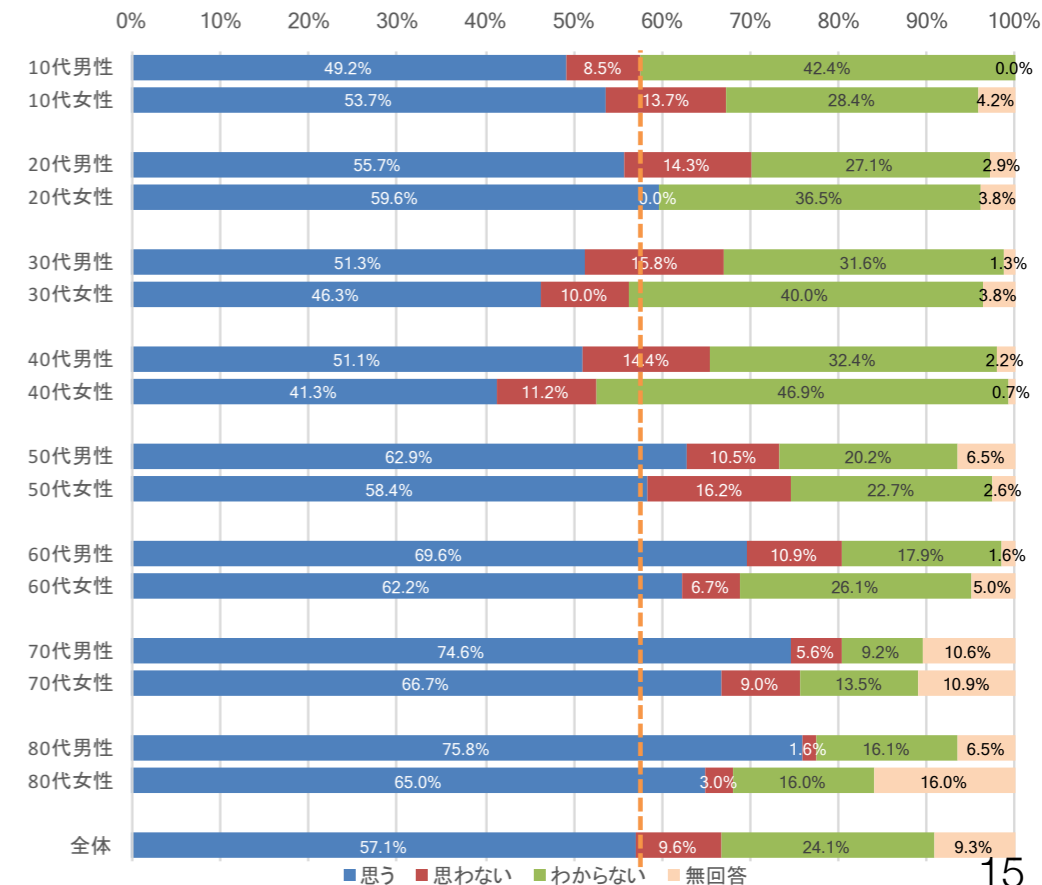


10代の愛着度は地区全体と差は無い  
※前回調査よりも愛着度は高くなっている!

愛着と定住意向が繋がっていないのは…  
将来への希望・安心感が足りていない!?  
(不安の方が大きい)

【注意】 30代・40~50代女性は愛着度は若干低め

## H29年度調査時の地域への愛着



地区全体では「愛着がある」が6割以上

【注意!】 地区全体では前回調査 (H29) よりも全体的に愛着度は上昇。ただし30代は低下傾向。

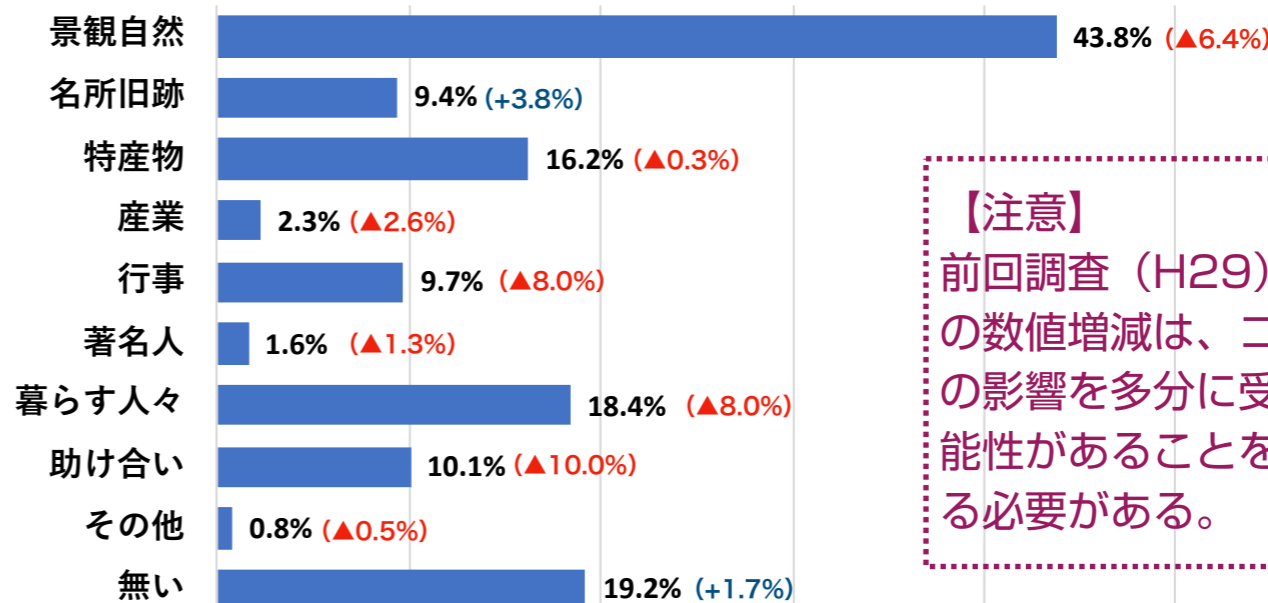
# 誇りに思う地域資源は何か

村上市・神林地区（2023）

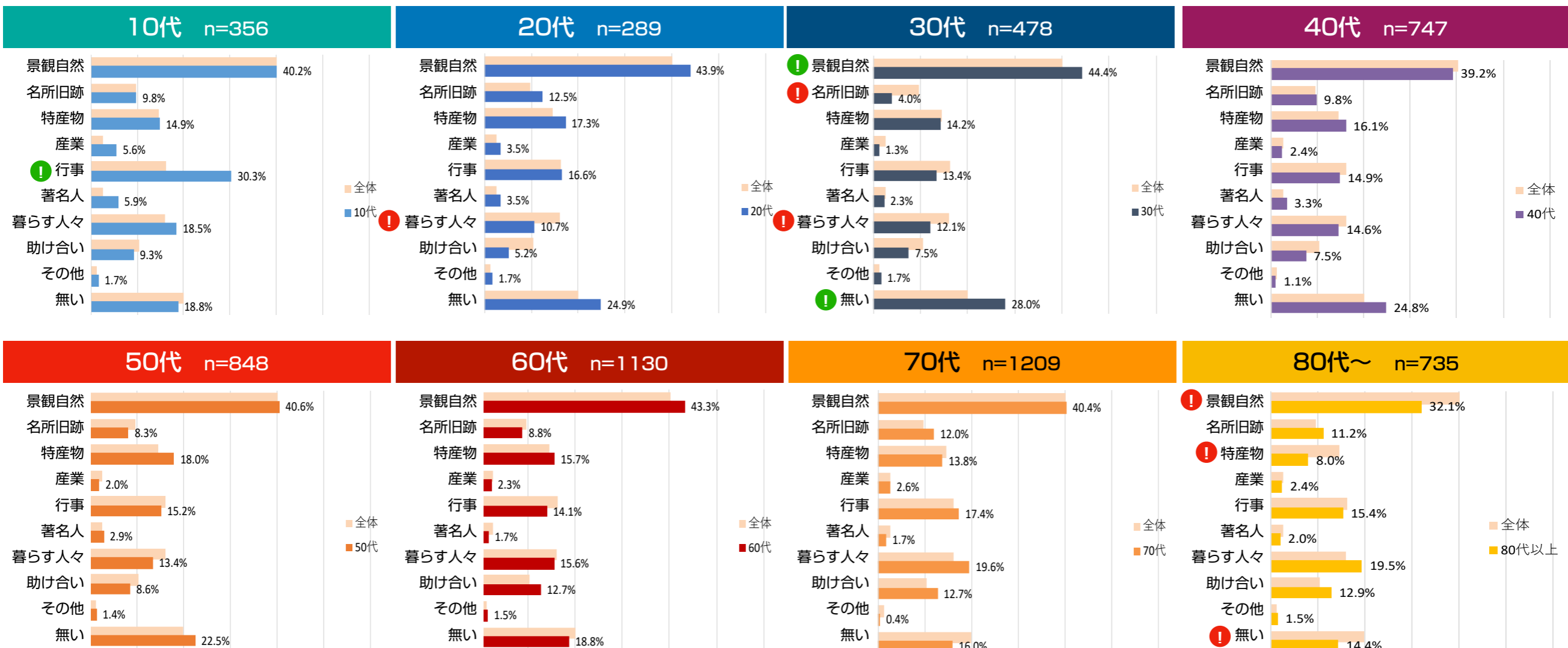
## 地域全体（複数回答） 括弧内は前回調査（H29）からの増減

### 【誇りに思う地域資源のトップ5】

- ① 景観・自然環境 43.8% (+4.9%)
- ② 無い 19.2% (+1.7%)
- ③ 暮らす人々 18.4% (▲8.0%)
- ④ 特産物 16.2% (▲0.3%)
- ⑤ 助け合い 10.1% (▲10.0%)



**【注意】**  
 前回調査（H29）からの数値増減は、コロナ禍の影響を多分に受けた可能性があることを考慮する必要がある。



! 地域平均よりも5%以上高い項目

! 地域平均よりも5%以上低い項目

# 日々の暮らしの心配ごと（複数回答）

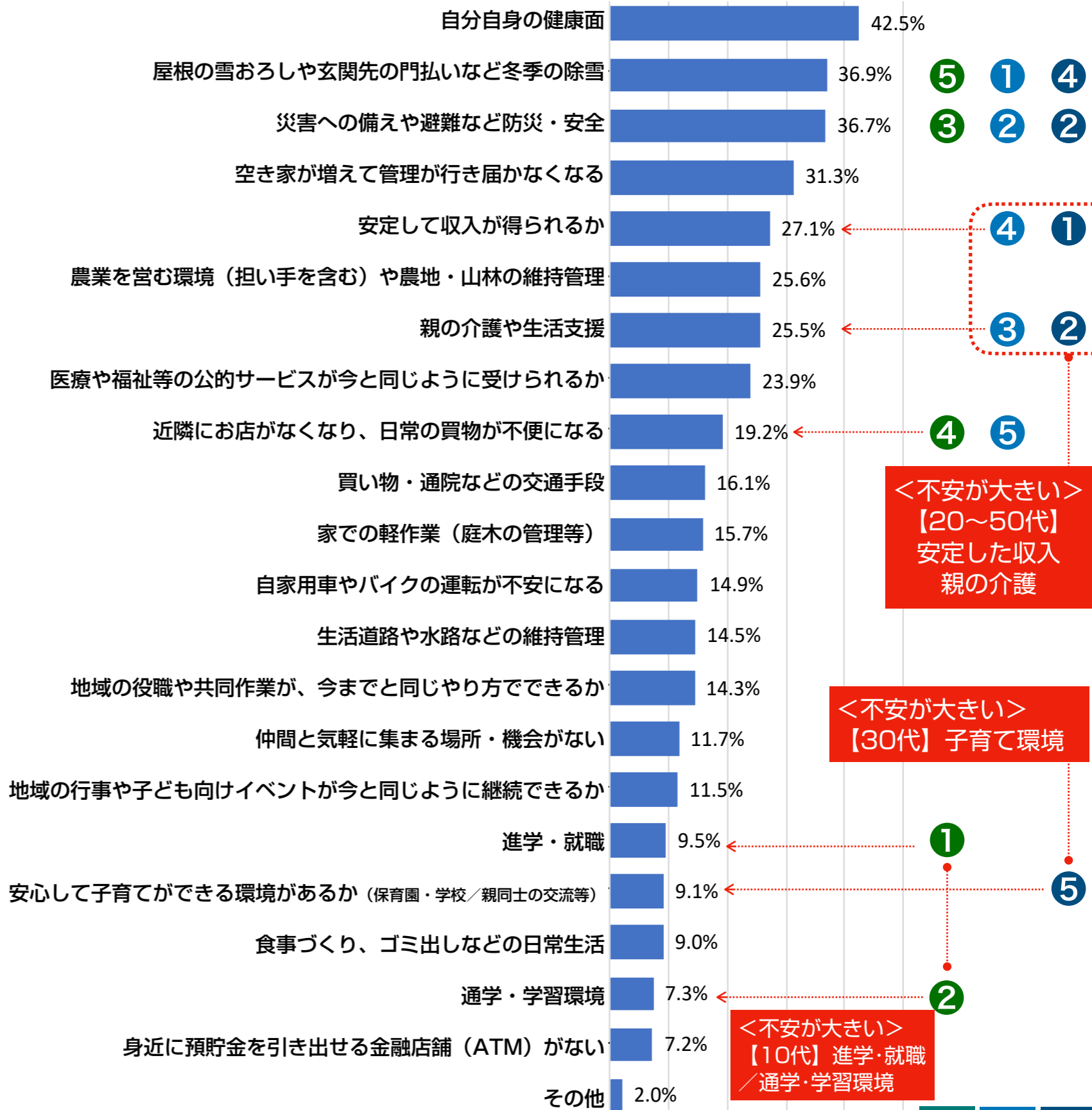
## 地区全体での集計結果

### 年代によって心配ごとは違う

10代		
1	進学・就職に関すること	32.6%
2	通学・学習環境のこと	24.2%
3	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	23.3%
4	近隣にお店がなくなり、日常の買物が不便になること	22.2%
5	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	19.4%

20代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	35.6%
2	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	35.3%
3	親の介護や生活支援のこと	29.4%
4	安定して収入が得られるか	28.7%
5	近隣にお店がなくなり、日常の買物が不便になること	23.2%

30代		
1	安定して収入が得られるか	38.9%
2	親の介護や生活支援のこと	37.9%
	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	
4	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	35.4%
5	安心して子育てができる環境があるか（保育園・学校／親同士の交流等）	28.0%



<不安が大きい>  
【20～50代】  
安定した収入  
親の介護

<不安が大きい>  
【30代】子育て環境

<不安が大きい>  
【10代】進学・就職  
／通学・学習環境



# 日々の暮らしの心配ごと（複数回答）

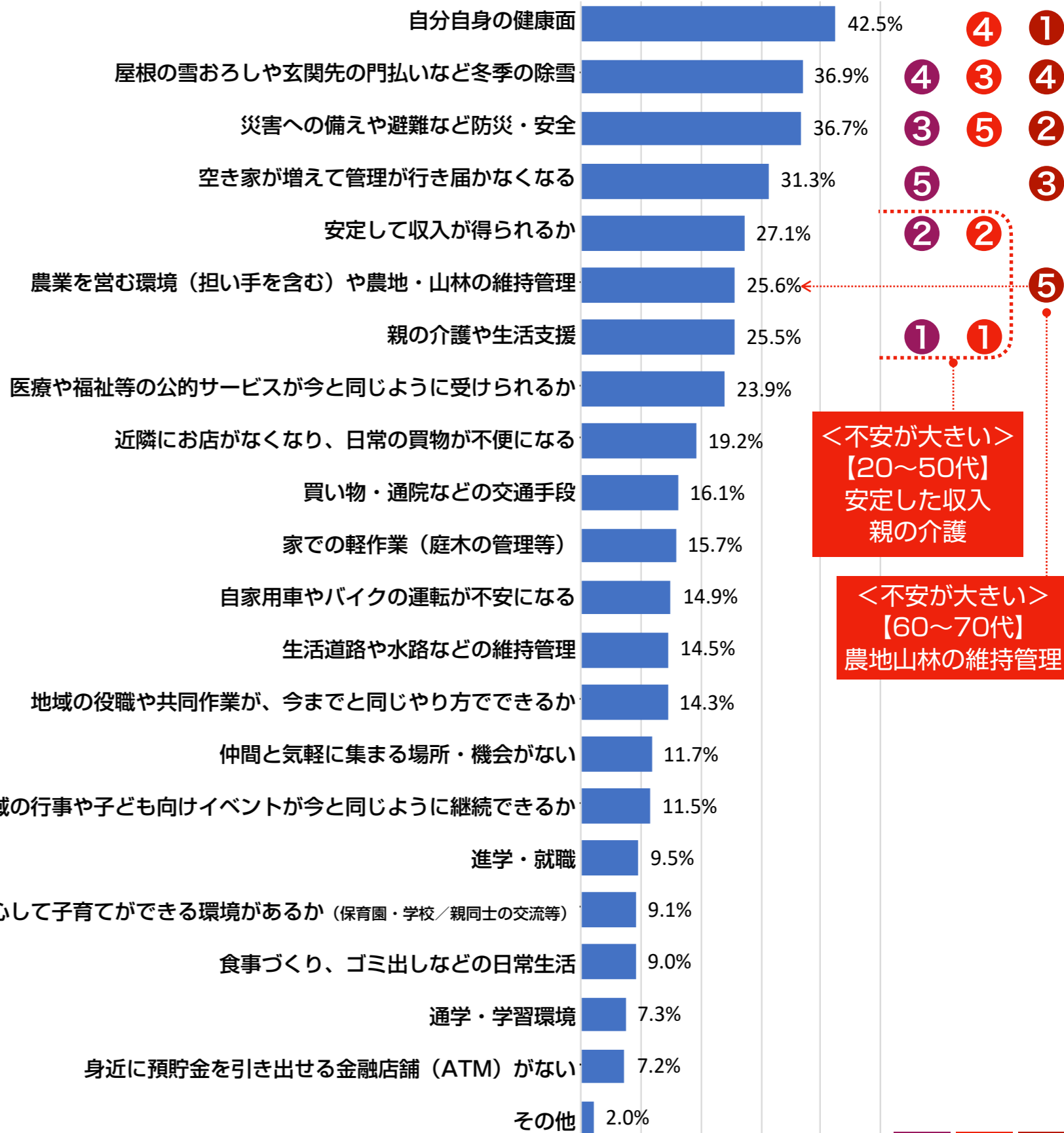
## 地区全体での集計結果

### 年代によって心配ごとは違う

40代		
1	親の介護や生活支援のこと	44.4%
2	安定して収入が得られるか	41.9%
3	安災害への備えや避難など防災・安全に関すること	39.2%
4	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	39.1%
5	空き家が増えて管理が行き届かなくなること	31.2%

50代		
1	親の介護や生活支援のこと	42.9%
2	安定して収入が得られるか	40.4%
3	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	38.9%
4	自分自身の健康面のこと	38.1%
5	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	37.6%

60代		
1	自分自身の健康面のこと	49.6%
2	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	42.0%
3	空き家が増えて管理が行き届かなくなること	41.7%
4	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	39.5%
5	農業を営む環境（担い手を含む）や農地・山林の維持管理に関すること	36.0%



<不安が大きい>  
【20～50代】  
安定した収入  
親の介護

<不安が大きい>  
【60～70代】  
農地山林の維持管理



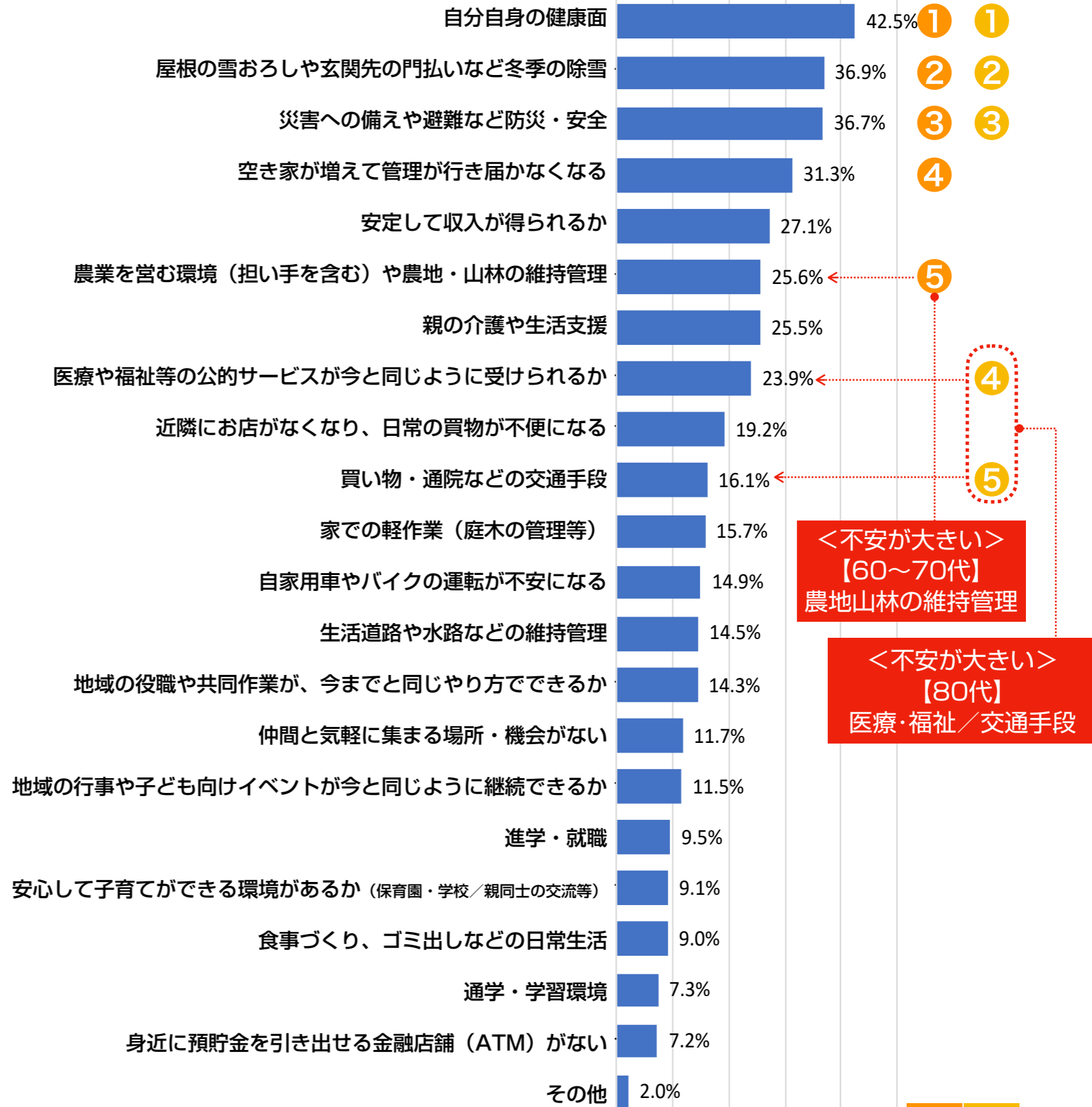
# 日々の暮らしの心配ごと（複数回答）

## 地区全体での集計結果

### 年代によって心配ごとは違う

70代		
1	自分自身の健康面のこと	58.5%
2	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	36.9%
3	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	36.5%
4	空き家が増えて管理が行き届かなくなること	35.0%
5	農業を営む環境（担い手を含む）や農地・山林の維持管理に関すること	30.7%

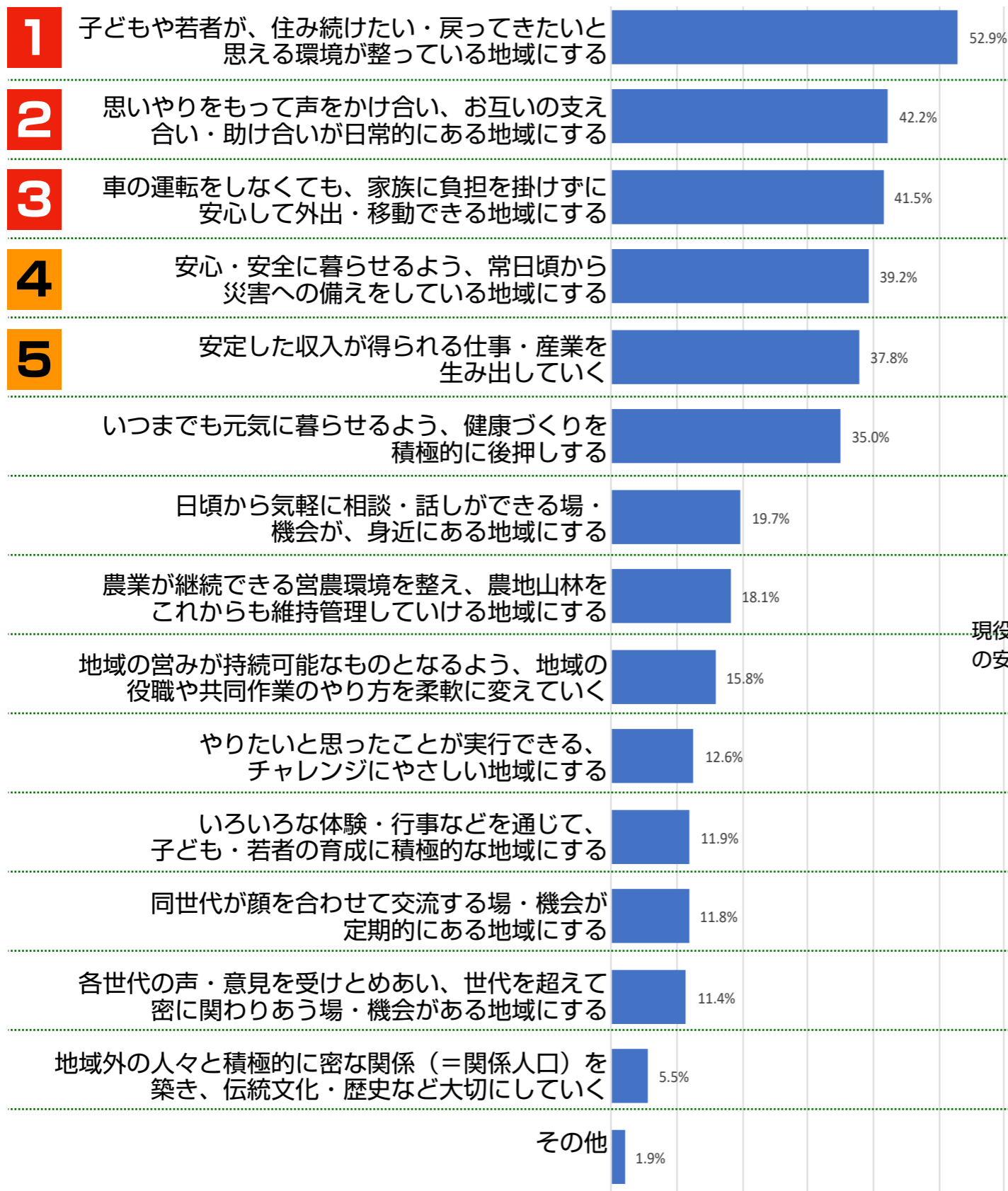
80代		
1	自分自身の健康面のこと	64.2%
2	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	38.5%
3	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	32.0%
4	医療や福祉等の公的サービスが今と同じように受けられるか	29.4%
5	買い物・通院などの交通手段に関すること	28.4%



# これからの地域づくりで大切なこと

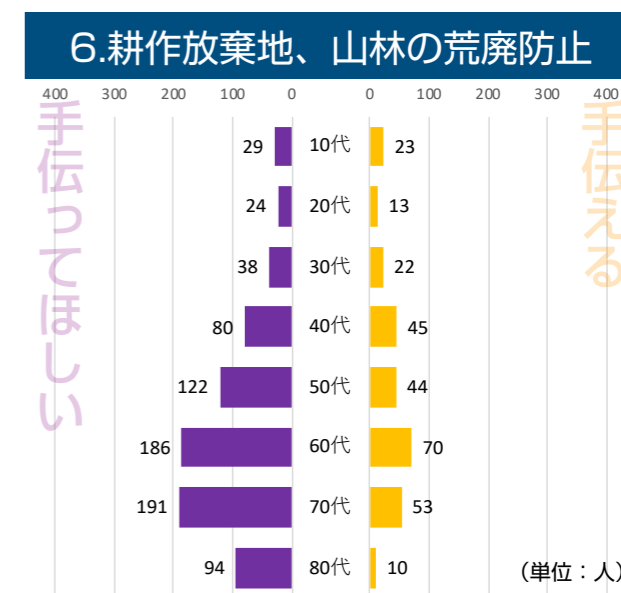
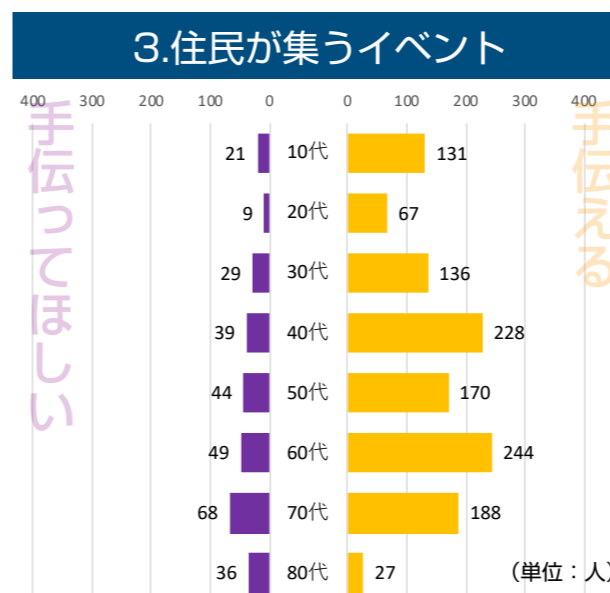
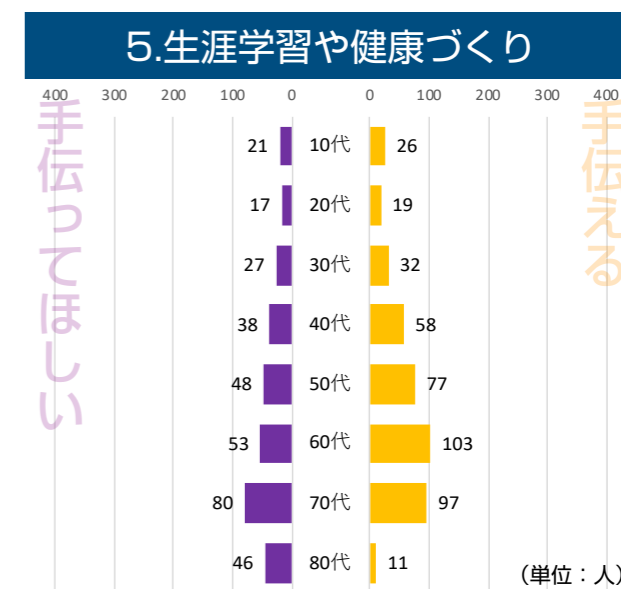
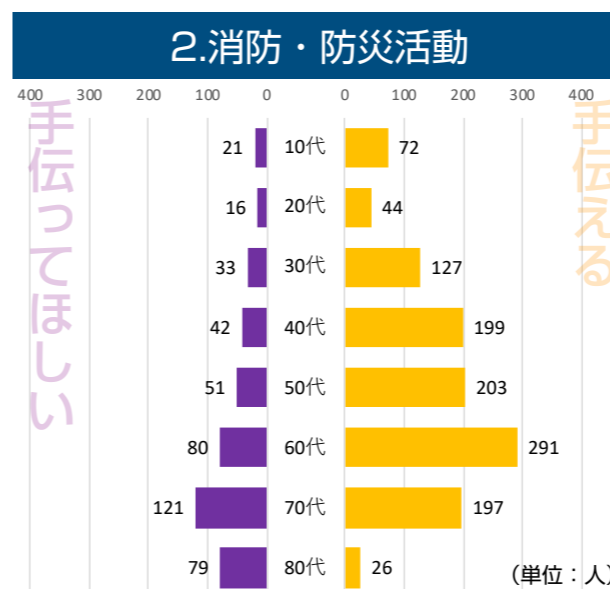
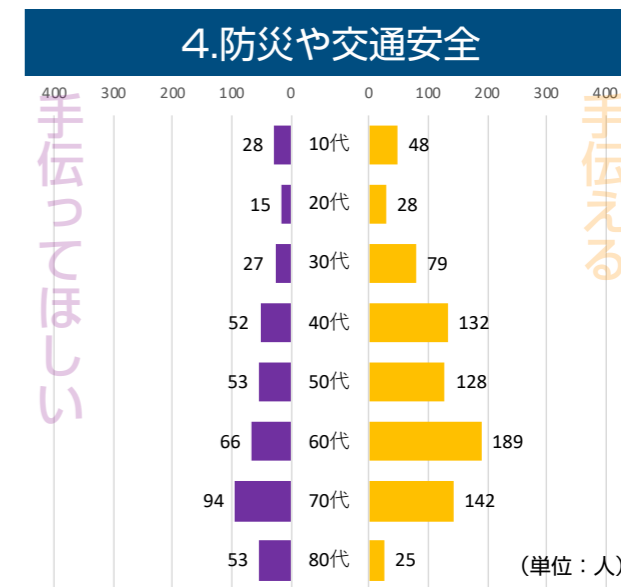
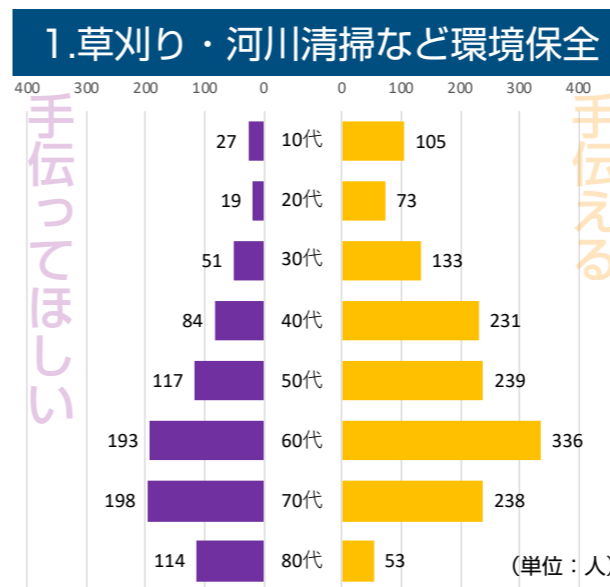
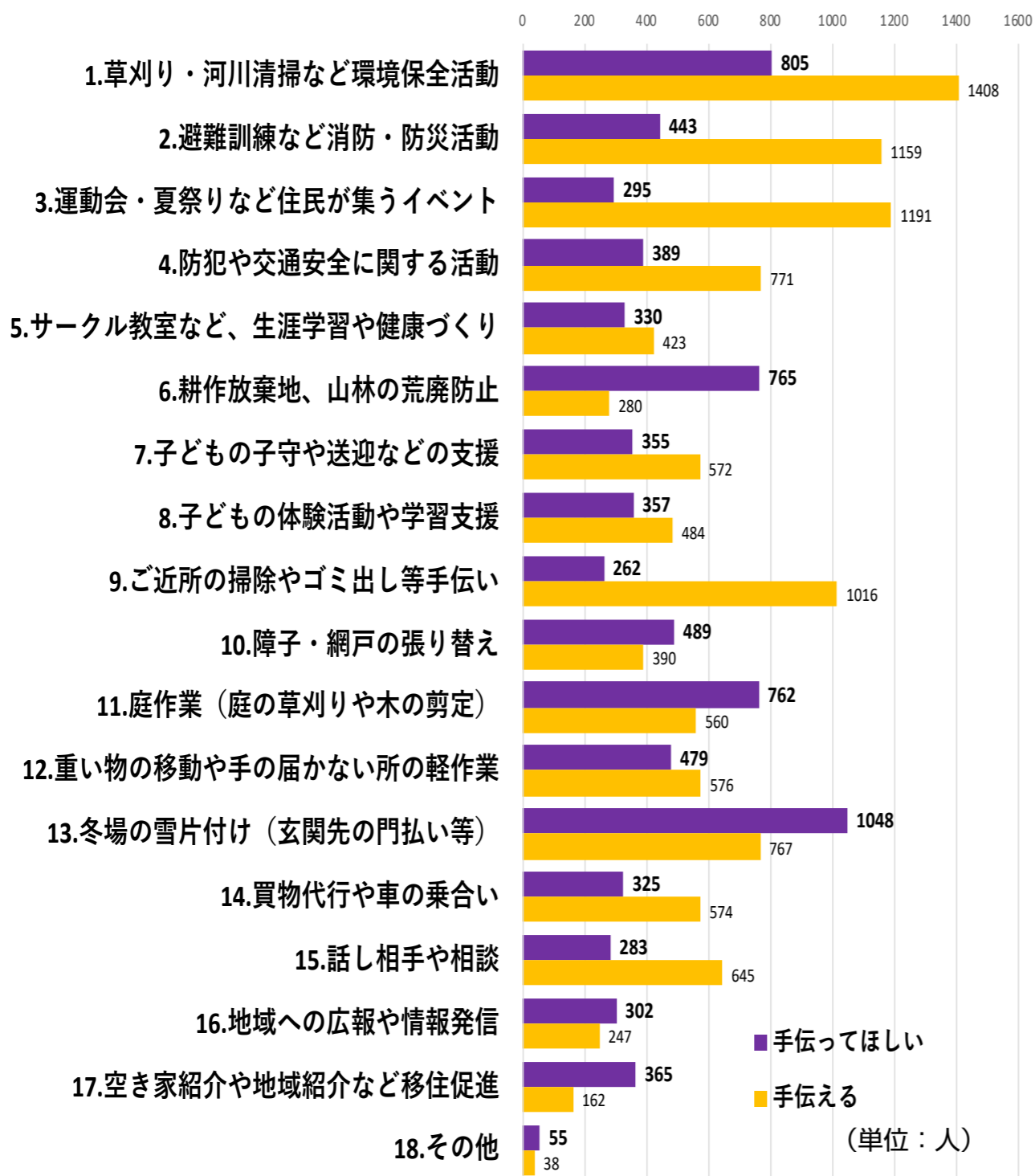
村上市・神林地区（2023）

## 地域全体での集計結果



# 手伝ってほしい / 手伝えること

村上市・神林地区 (2023)



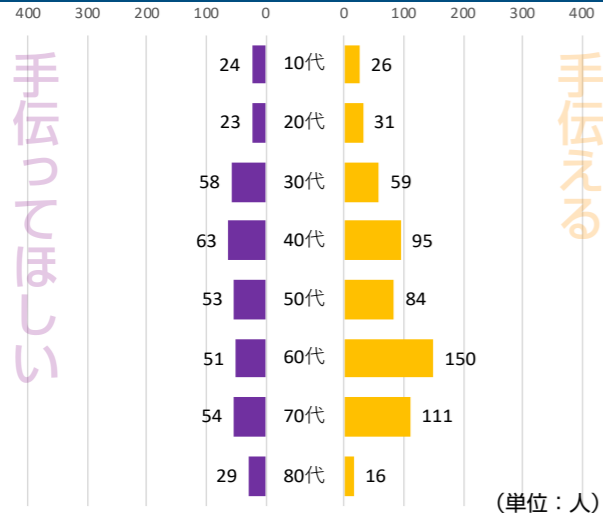
大半の作業項目で  
手伝ってほしい < 手伝える

共助の担い手となる住民は、潜在的にかなりの人数がいる！

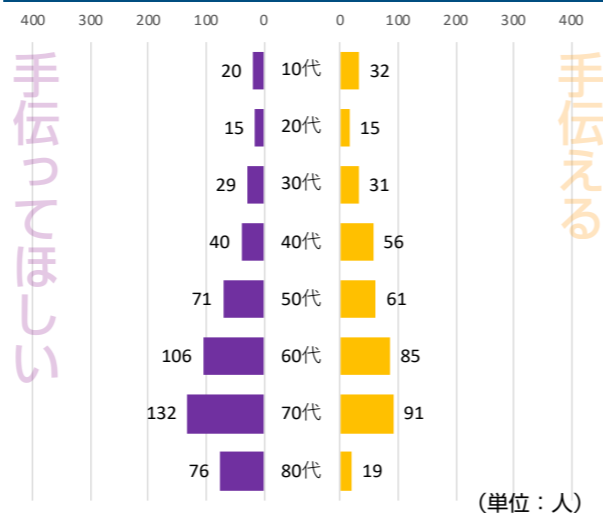
# 手伝ってほしい / 手伝えること

村上市・神林地区 (2023)

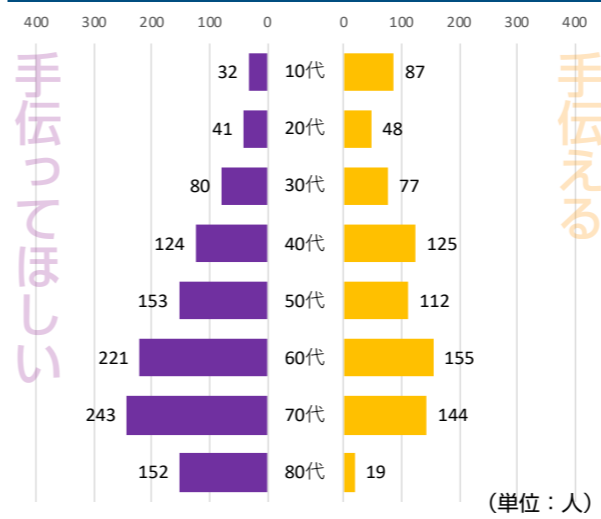
## 7. 子守や送迎などの支援



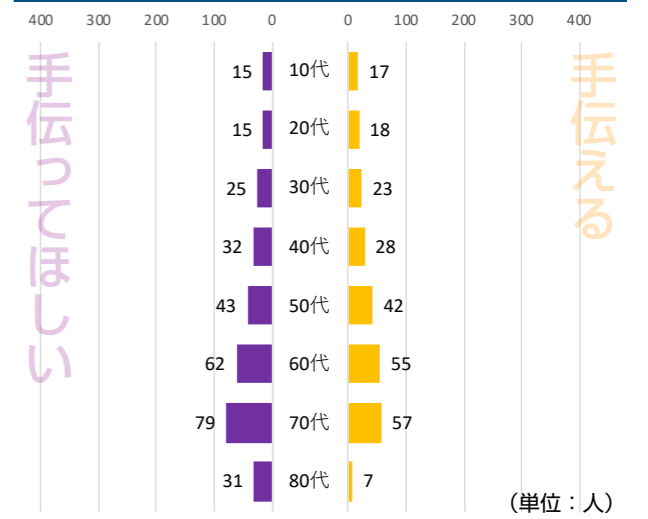
## 10. 障子・網戸の張り替え



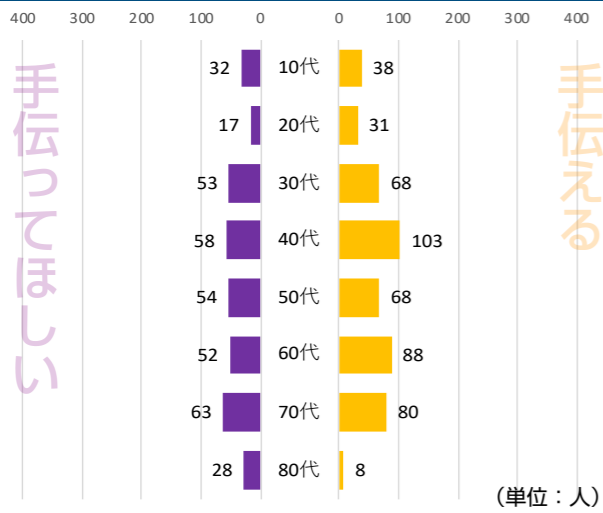
## 13. 冬場の雪片付け (玄関先の門払い等)



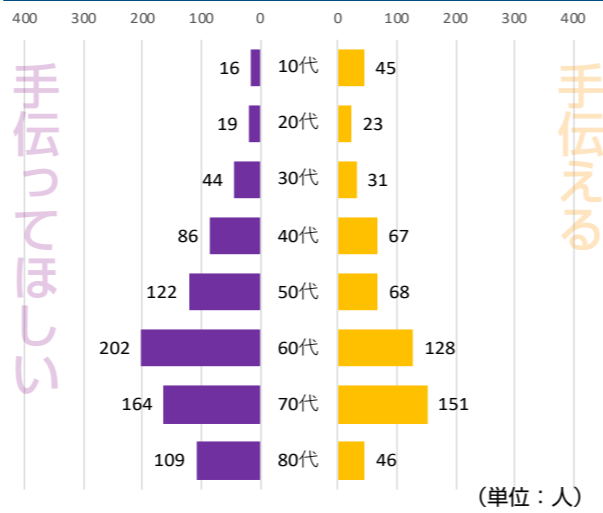
## 16. 地域への広報や情報発信



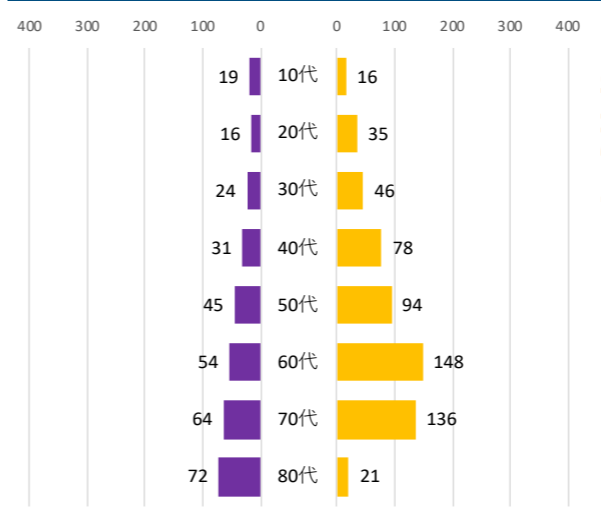
## 8. 子どもの体験活動や学習支援



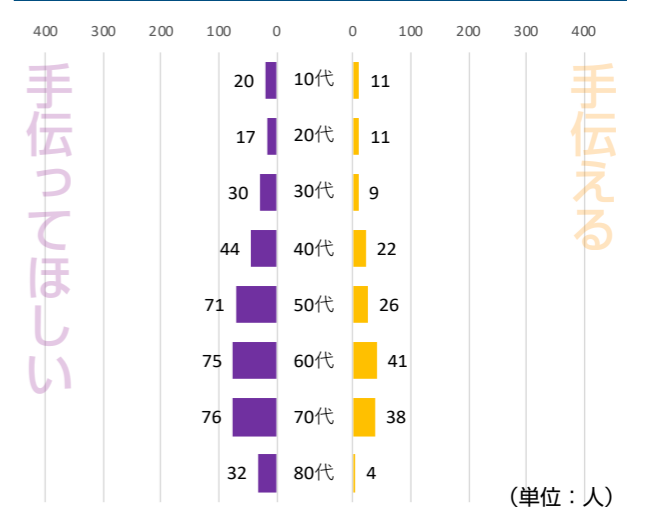
## 11. 庭作業 (庭の草刈りや木の剪定)



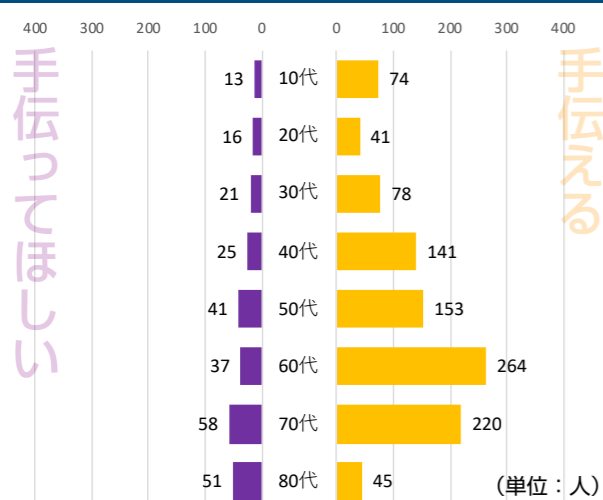
## 14. 買い物代行や車の乗り合い



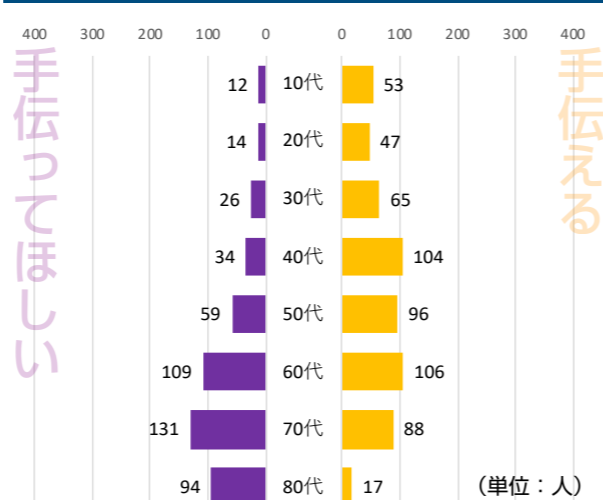
## 17. 空き家紹介等移住促進



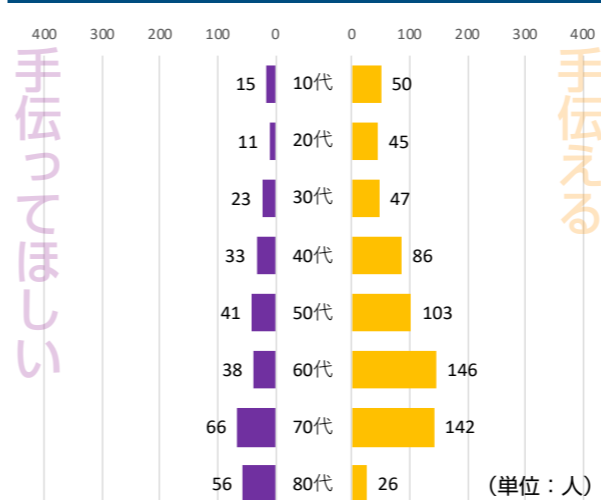
## 9. 掃除やゴミ出し等手伝い



## 12. 重い物の移動など軽作業



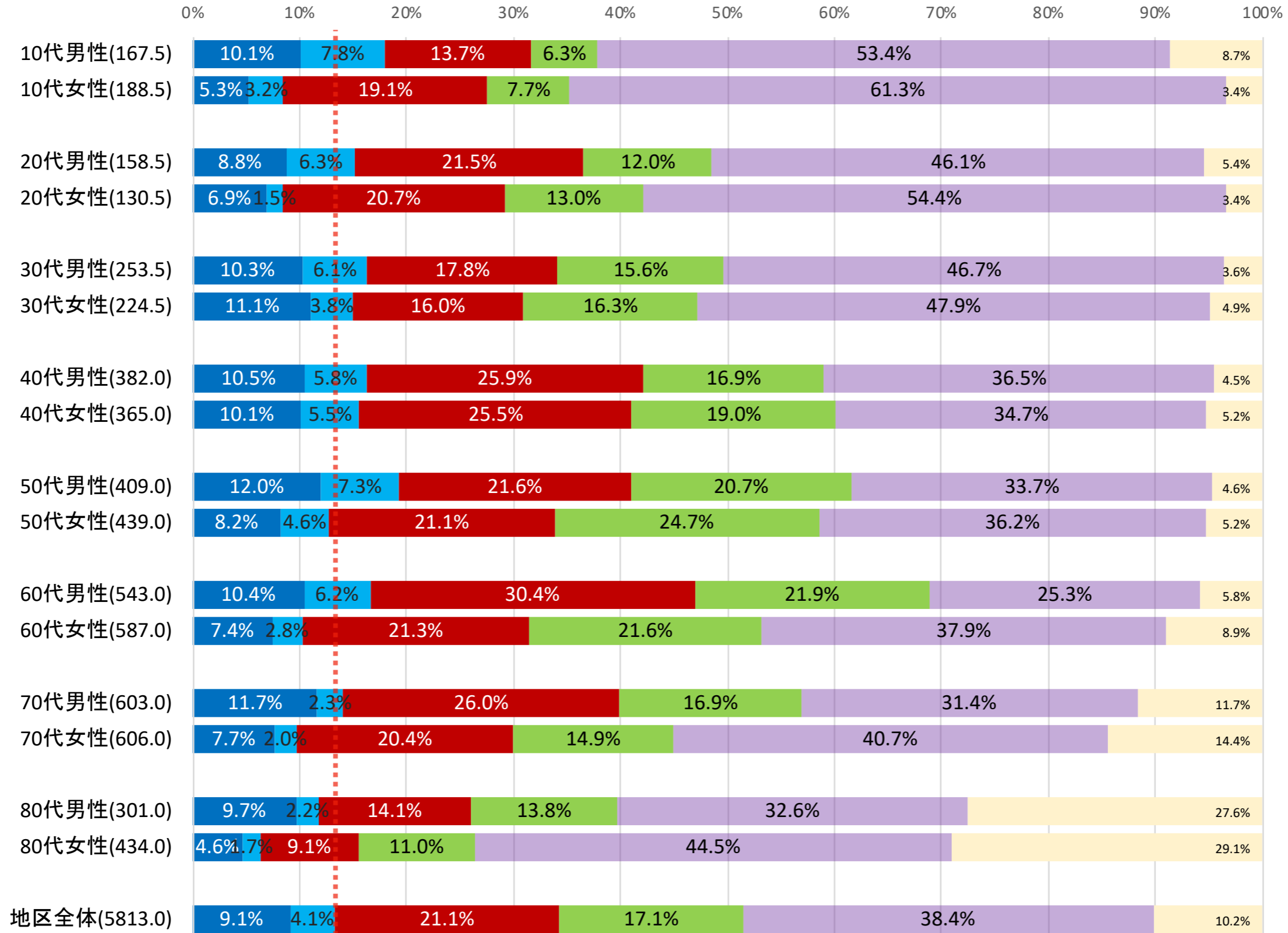
## 15. 話し相手や相談



# まち協を小中学校区に合わせて再編すべきか？

村上市・神林地区（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



再編の必要性を感じているのは地区全体では1割強  
約2割の住民は必要性を感じていない

■ 小学校区単位 ■ 中学校区単位 ■ 必要なし ■ どちらともいえない ■ わからない ■ 無回答



# 路線バスの利用状況

村上市・神林地区 (2023)

## 利用状況

ほぼ毎週利用している  
月に数回利用している  
年に数回利用している

**19**人 / 5,813人 (0.3%)

**15**人 / 5,813人 (0.3%)

**60**人 / 5,813人 (1.0%)

利用していない **5,336**人 / 5,813人 (91.8%)

※回答なし：383人

## 最も利用する路線

村上～松喜和～小岩内線 **32**人

村上～瀬波温泉～岩船駅線 **13**人

下関～新町～村上線 **41**人

※回答なし：14人

## 利用目的 (複数回答)

通院 : 58 懇親会出席 : 8

買物 : 39 生涯学習等 : 2

家庭の用事 : 19 その他 : 13

通勤通学 : 28

会議出席 : 1

## 最も利用する降車場所

村上営業所 : 12人 岩船中学校前 : 1人 緑町 : 1人

村上病院前 : 10人 小出 : 3人 岩船下大町 : 1人

松喜和 : 5人 二之町 : 2人 下関営業所 : 1人

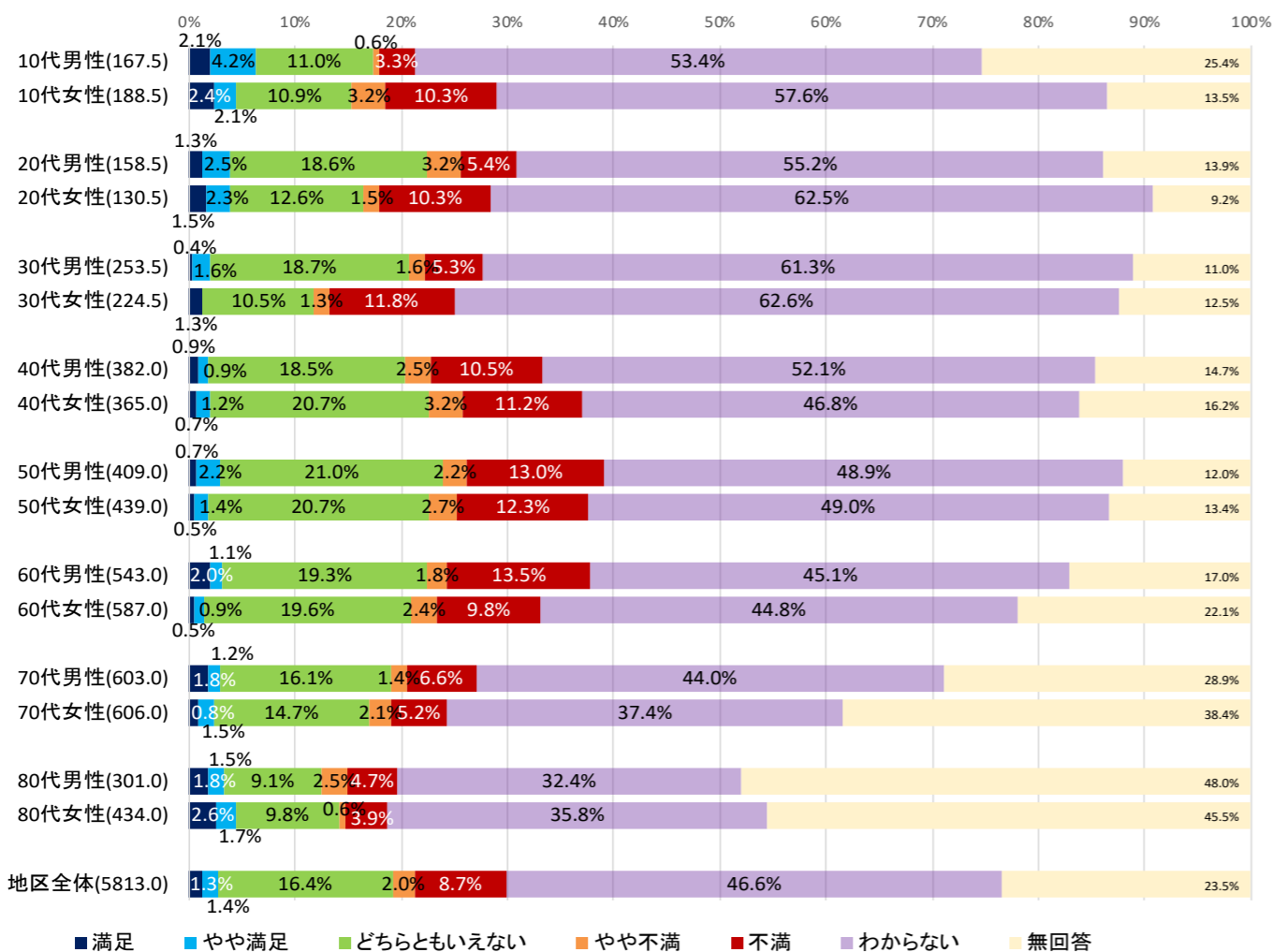
村上駅 : 4人 里本庄 : 2人

桃川下 : 3人 上助測 : 2人 回答無し : 36人

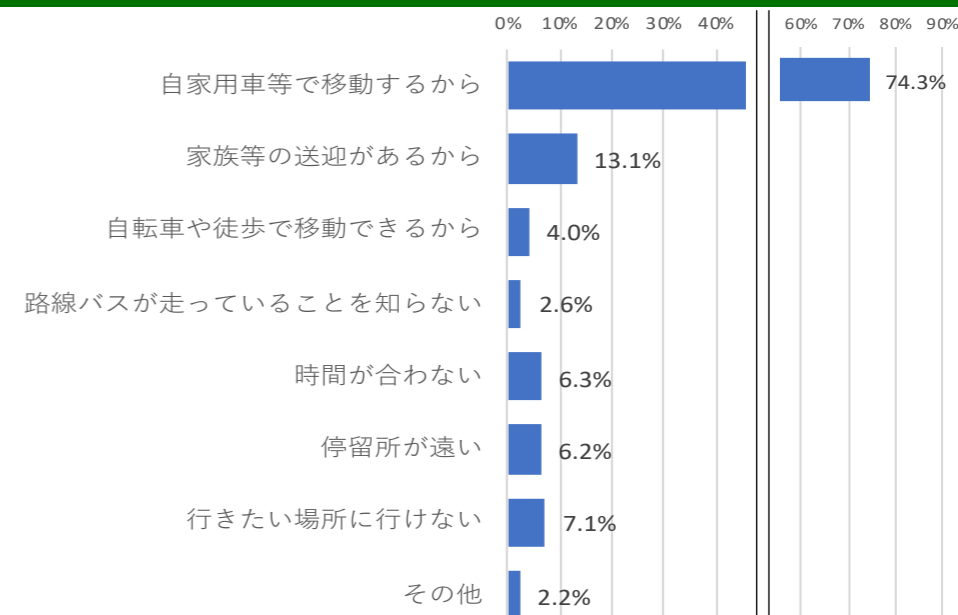
桃川中 : 3人 平林 : 2人

岩船駅前 : 1人 田口 : 1人

## 路線バスの満足度



## 利用しない理由 (複数回答)



路線バスの満足度は高くはない。

※そもそも利用していないため4割以上が「わからない」と回答

# 乗り合いタクシーの利用状況

村上市・神林地区 (2023)

## 利用状況

ほぼ毎週利用している  
月に数回利用している  
年に数回利用している

**7**人／5,813人 (0.1%)  
**40**人／5,813人 (0.7%)  
**108**人／5,813人 (1.9%)

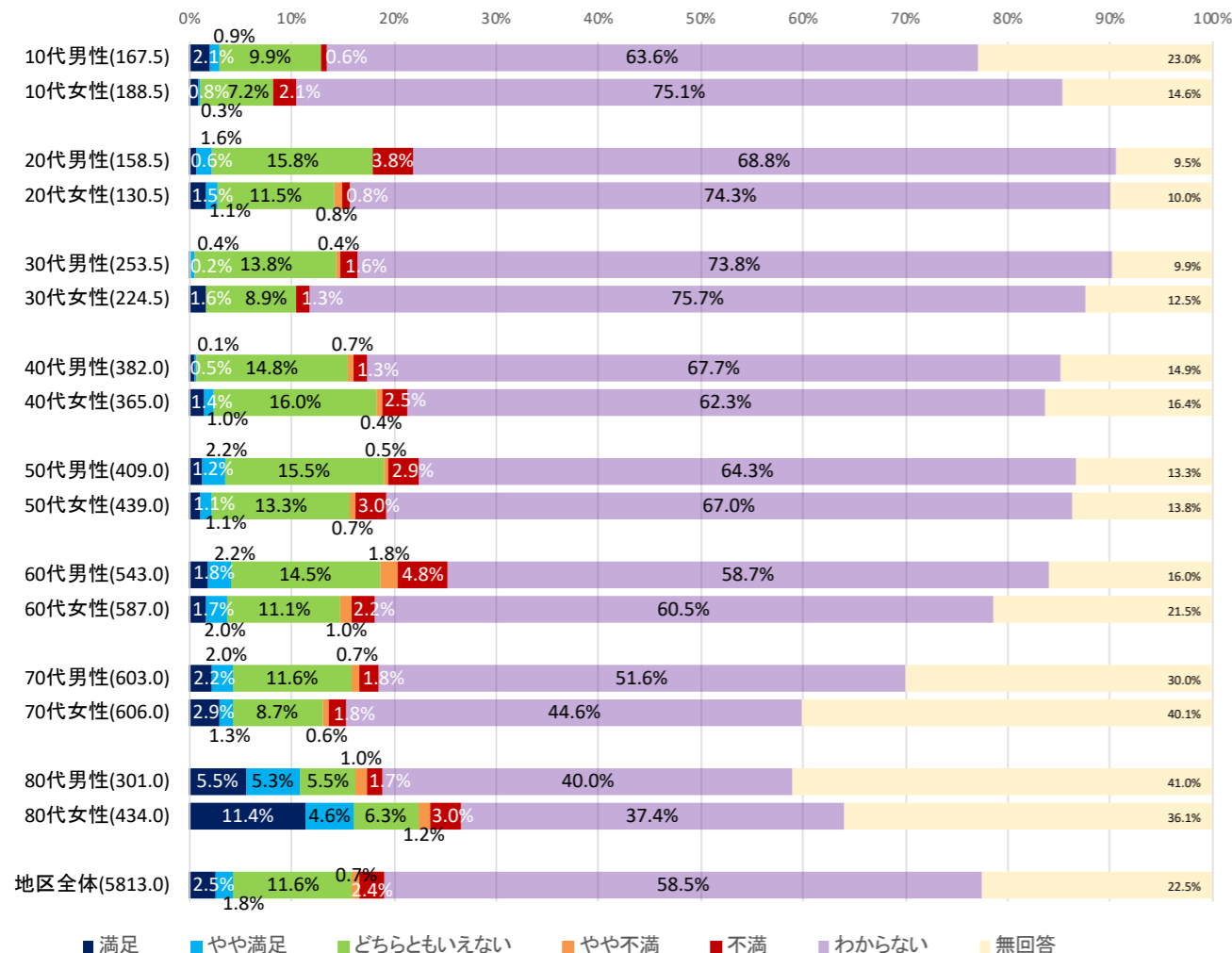
利用していない **5,312**人／5,813人 (91.4%)

※回答なし：346人

## 利用目的 (複数回答)

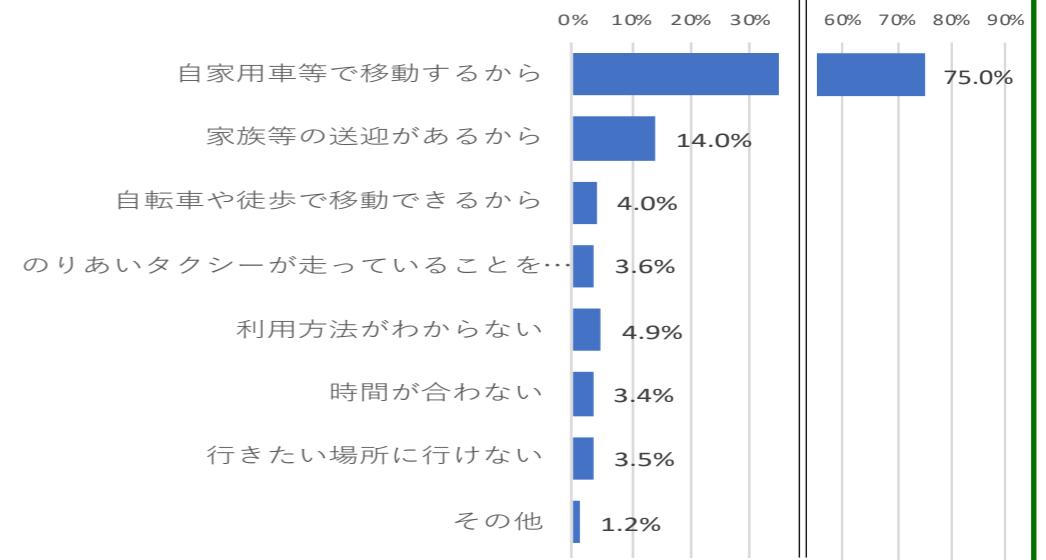
通院	: 153	通勤通学	: 3
買物	: 34	会議出席	: 0
家庭の用事	: 14	懇親会出席	: 1
		生涯学習等	: 3
		その他	: 9

## 乗り合いタクシーの満足度



利用者が少ないこともあり、6割近くが「わからない」と回答

## 利用しない理由 (複数回答)



## ☑ 農業従事者の84.8%が60代以上

- ▶ このままだと20年後には230人程度（現在の約3割）になってしまう見込み。



農地の維持管理は  
将来的どうなる？

## ☑ 80代になり自分で車の運転ができなくなっても、親族等による車での送迎で移動手段は確保されている

- ▶ 80代になると、免許なし（返納含む）の割合が増加し、「車での送迎」が主な移動手段になる割合が高まる。（特に女性）
- ▶ 60～70代の3～4割が単身もしくは夫婦のみ世帯という家族構成。
- ▶ 女性は運転に不安を感じている（特に夜間や冬期）割合が男性よりも高い。



親族等による車での  
送迎を、今後も同じ  
ようにあてにできる  
か？

## ☑ 路線バス・乗り合いタクシーはほとんど利用されていない

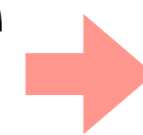
- ▶ 月数回以上、路線バスを利用しているのは0.6%、のりあいタクシーは0.8%という状況。

将来的に公共交通は  
このままで本当によ  
いのか?!



## ☑ 集落内・地区内共に約2/3が相談相手がいる

- ▶ 10代は4割、20代は6～7割が集落内に相談相手がない。（30～40代も4割）
- ▶ 20代は約半数が地区内にも相談相手がない。



若年層のコミュニケーション機会のあり方・頻度を考えていく必要があるのでは？

## ☑ 4割以上が関心の有無に関わらず地域活動に参加している

- ▶ 30～60代男性は4～6割が参加。
- ▶ 関心あり＋不参加はどの年代でも3～5割いる。
- ▶ 女性は「関心あり＋不参加」の割合が男性よりも高い。
- ▶ 20代は「関心なし＋不参加」が3～4割。
- ▶ 前回調査（H29）と比較すると、全体的に参加率は微増。20代男性の「関心なし＋不参加」の割合が上昇。



参加の機会・方法のさらなる多様化を！

## ☑ 20～50代で土曜日が毎週休日であるのは3割以下。日曜日が毎週休日なのは4～6割という状況。

- ▶ 働いている世代は、必ずしも土曜日が休日ではない。



## ☑近所づきあいについては、半数以上が「悩みなし」

- ▶ 30～60代は、「わずらわしさ」が若干高め。
- ▶ 40～60代は「仕事・行事が多くて忙しすぎる」の割合が高く、多忙さ・負担の大きさを、より強く感じている。

これまでのやり方・活動内容を見直し、負担の軽減を図っていくことが不可避！

## ☑半数近くが移住・定住者の受け入れは必要と考えている

- ▶ 30代と40～60代男性は「必要」という回答が5～6割。

積極的に受け入れることを望む声が多い

## ☑他地域との交流の必要性は4割以上が「わからない」

- ▶ どの年代も賛否は半々。

地域としてはあまり積極姿勢ではない

## ☑誇りに思う地域資源 (トップ5)

括弧内は前回調査 (H29) からの増減

- |          |       |          |
|----------|-------|----------|
| ①景観・自然環境 | 43.8% | (+4.9%)  |
| ②無い      | 19.2% | (+1.7%)  |
| ③暮らす人々   | 18.4% | (▲8.0%)  |
| ④特産物     | 16.2% | (▲0.3%)  |
| ⑤助け合い    | 10.1% | (▲10.0%) |

前回調査 (H29) からの数値増減は、コロナ禍の影響を多分に受けた可能性があることを考慮する必要がある。



## ☑ 「この地域に住み続けたい」は地区全体では6割

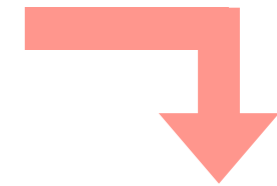
- ▶ 10～30代と40・50代女性の定住意向は3～4割と低い（ただし「わからない」も4割以上）
- ▶ 前回調査（H29）に比べ、50代以下の定住意向は減少。特に40・50代女性は大幅減。

## ☑ 「自分の子どもにも住み続けてほしい」は地域全体で4割以上

- ▶ 10～40代・50代女性は「住み続けてほしい」が2～3割と低い。（ただし「わからない」が4～6割）
- ▶ 20代と30～50代女性は「住み続けてほしいとは思わない」の方が多い。
- ▶ 前回調査（H29）に比べ、60代以下は子どもへの定住希望がかなり低下している（特に女性）

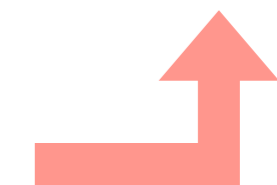
## ☑ 地区全体では6割以上が「地域に愛着がある」

- ▶ 10代の愛着度は地区全体と差は無い。（前回調査よりも高い）
- ▶ 30代・40～50代女性は愛着度は若干低め。
- ▶ 前回調査（H29）よりも全体的に愛着度は上昇。ただし30代は低下傾向。



「わからない」が多いということは、これからの取り組み次第！

愛着があっても定住意向が低いのは、将来への希望・安心感が足りていないことが要因!?



## ☑日々の暮らしの不安・心配ごと（トップ5）

- ①自自分自身の健康面
- ②屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪
- ③災害への備えや避難など防災・安全
- ④空き家が増えて管理が行き届かなくなる
- ⑤安定して収入が得られるか

<特定の年代で不安が大きい項目>

【10代】進学・就職／通学・学習環境

【30代】子育て環境

【20～50代】安定した収入／親の介護

【60～70代】農地山林の維持管理

【80代】医療福祉・交通手段

## ☑これからの地域づくりで大切なこと（トップ5）

- ①子どもや若者が、住み続けたい・戻ってきたいと思える環境が整っている地域にする
- ②思いやりをもって声をかけ合い、お互いの支え合い・助け合いが日常的にある地域にする
- ③車の運転をしなくても、家族に負担を掛けずに安心して外出・移動できる地域にする
- ④安心・安全に暮らせるよう、常日頃から災害への備えをしている地域にする
- ⑤安定した収入が得られる仕事・産業を生み出していく

地域の暮らし・営みを持続可能なものとするための取り組み・将来への備えが、強く求められている。

ただし、年代によって上位にランキングされている内容は異なる。各々の内容をさらに深掘りしていくことが大切。

## ☑共助の担い手となる住民は潜在的にいる！

- ▶ 大半の作業項目で、「手伝ってほしい」よりも「手伝える」人数の方が多い。
- ▶ 作業項目によっては、若者・中堅世代も、それなりの人数が「手伝える」と回答。



お互いさまで暮らしを支え合う仕組みを構築できれば、住民同士での共助が成立する土壌はある！

## ☑まち協再編の必要性を感じているのは1割半ば

- ▶ 必要性を感じていない住民は2割前後。



再編の必要性を感じているのは一部のみ。